2027年3月期
第2四半期
決算説明会資料



東証プライム：５９９１
日本発条株式会社
２０２６年１１月１２日

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

27.3期 第2四半期連結決算
27.3期 通期業績予想

専務執行役員
CFO

池尻　修

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

27.3期 第2四半期連結決算

27.3期 第2四半期連結決算のポイント

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

実績
(前年同期比)

- **売上高：**HDD関連・半導体関連の需要が堅調に推移し、円安による為替影響も寄与し増収となった
- **営業利益：** HDD関連・半導体関連の数量増、シートの開発費売上の計上、為替影響等により増益となった

通期業績予想
(前期比)

- **売上高：**HDD関連・半導体関連の需要増により増収を見込む
- **営業利益：** HDD関連・半導体関連の数量増、各事業セグメントで合理化が進み増益を見込む

【通期業績予想を修正した背景・主な増減要因】
上期業績が好調に推移したことに加え、下期もHDD関連・半導体関連の需要が増加することが見込まれることから通期業績予想の修正を行った。なお、前提となる通期為替レートは、155.4円/米ドル、4.8円/タイバーツとする。

株主還元

- **株主還元：年間配当 84円（前期比 +18円／前回予想比 +15円）**
  - 中間配当：40円　期末配当予想：44円
  - 通期の配当性向は34.0%となる見込み

27.3期 第2四半期連結決算

（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

			26.3期	27.3期上期		増減	
			上期実績	５月時点予想	実績	対前年同期	対５月予想
売上高			**3,939**	**4,160**	**4,407**	**468**	**247**
営業利益			**185**	**220**	**337**	**152**	**117**
営業利益率			4.7%	5.3%	7.7%	3.0%	2.4%
経常利益			**198**	**245**	**404**	**206**	**159**
経常利益率			5.0%	5.9%	9.2%	4.2%	3.3%
親会社株主に帰属する中間純利益			**139**	**175**	**297**	**158**	**122**
特別損益			–	–	△2	△2	△2
平均為替レート	ＵＳ＄		146.6	150.0	160.0	13.4	10.0
	タイバーツ		4.4	4.8	4.9	0.5	0.1
期末為替レート	ＵＳ＄	（当期）	148.9	150.0	157.4	8.5	7.4
		（前期）	149.5	159.9	159.9	10.4	–
	タイバーツ	（当期）	4.4	4.8	4.9	0.5	0.1
		（前期）	4.6	5.0	5.0	0.4	–

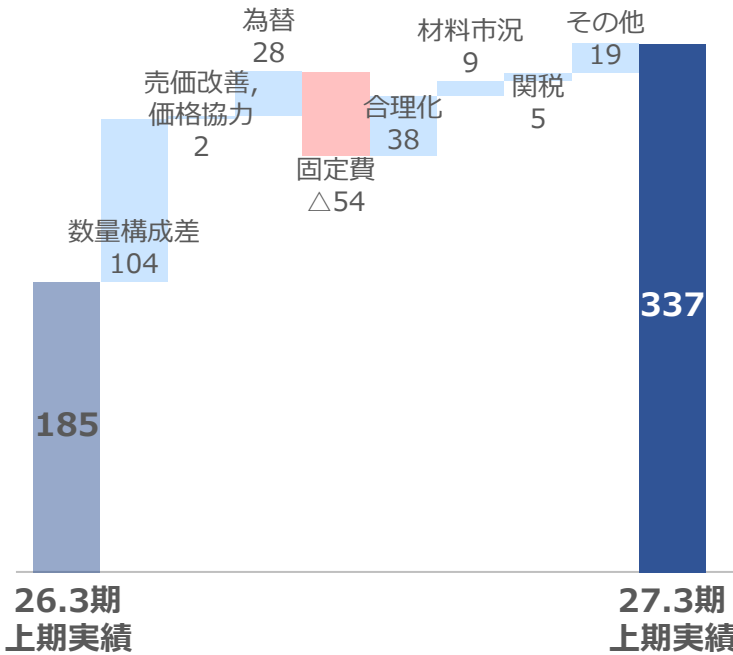
営業利益の変動要因分析

（単位：億円）

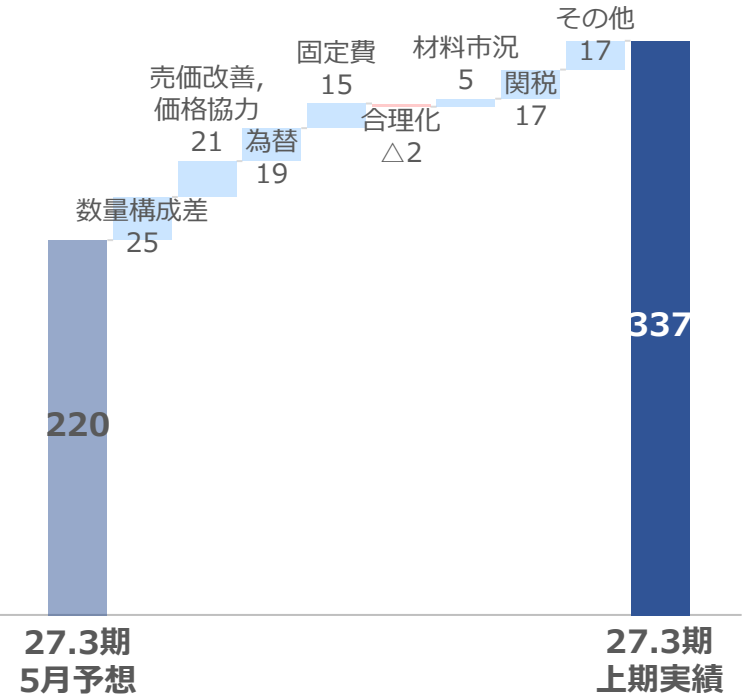
	26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
売上高	3,939	4,160	**4,407**	468	247
営業利益	185	220	**337**	152	117
営業利益率	4.7%	5.3%	**7.7%**	3.0%	2.4%

営業利益の変動要因分析

（対前年同期増減）



（対５月予想増減）



▽対前年同期実績

増収468億円のうち約4割にあたる183億円が在外子会社の換算影響。

HDD関連および半導体関連が好調に推移したほか、固定費の増加はあったものの、合理化効果の積み上げや円安による為替影響も寄与し、全体で増益となった。

▽対５月時点予想

増収247億円のうち3割強にあたる87億円は在外子会社の換算影響。

各事業における数量増加や売価改善に加え、シート事業の開発費売上の計上や、円安による為替影響、関税影響等も寄与し、全体で増益となった。

事業セグメント別の売上高・営業利益の状況

（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

		26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
■懸架ばね	売上高	830	810	**879**	49	69
	営業利益	3	2	**4**	1	2
	営業利益率	0.4%	0.2%	**0.5%**	0.1%	0.3%
■シート	売上高	1,420	1,480	**1,528**	108	48
	営業利益	20	23	**58**	38	35
	営業利益率	1.4%	1.6%	**3.8%**	2.4%	2.2%
■精密部品	売上高	508	530	**562**	54	32
	営業利益	13	17	**27**	14	10
	営業利益率	2.6%	3.2%	**4.8%**	2.2%	1.6%
■ＤＤＳ	売上高	600	690	**762**	162	72
	営業利益	120	136	**190**	70	54
	営業利益率	20.1%	19.7%	**25.0%**	4.9%	5.3%
■産業機器ほか	売上高	580	650	**674**	94	24
	営業利益	28	42	**57**	29	15
	営業利益率	4.9%	6.5%	**8.5%**	3.6%	2.0%
合計	売上高	3,939	4,160	**4,407**	468	247
	営業利益	185	220	**337**	152	117
	営業利益率	4.7%	5.3%	**7.7%**	3.0%	2.4%

地域セグメント別の売上高・営業利益の状況

（単位：億円）

		26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
●日本	売上高	2,194	2,337	**2,464**	270	127
	営業利益	117	95	**195**	78	100
	営業利益率	5.3%	4.1%	**7.9%**	2.6%	3.8%
●アジア	売上高	1,076	1,154	**1,190**	114	36
	営業利益	108	130	**137**	29	7
	営業利益率	10.1%	11.3%	**11.6%**	1.5%	0.3%
●米欧ほか	売上高	668	667	**751**	83	84
	営業利益	△40	△6	**4**	44	10
	営業利益率	△6.0%	△0.9%	**0.6%**	6.6%	1.5%
合計	売上高	3,939	4,160	**4,407**	468	247
	営業利益	185	220	**337**	152	117
	営業利益率	4.7%	5.3%	**7.7%**	3.0%	2.4%

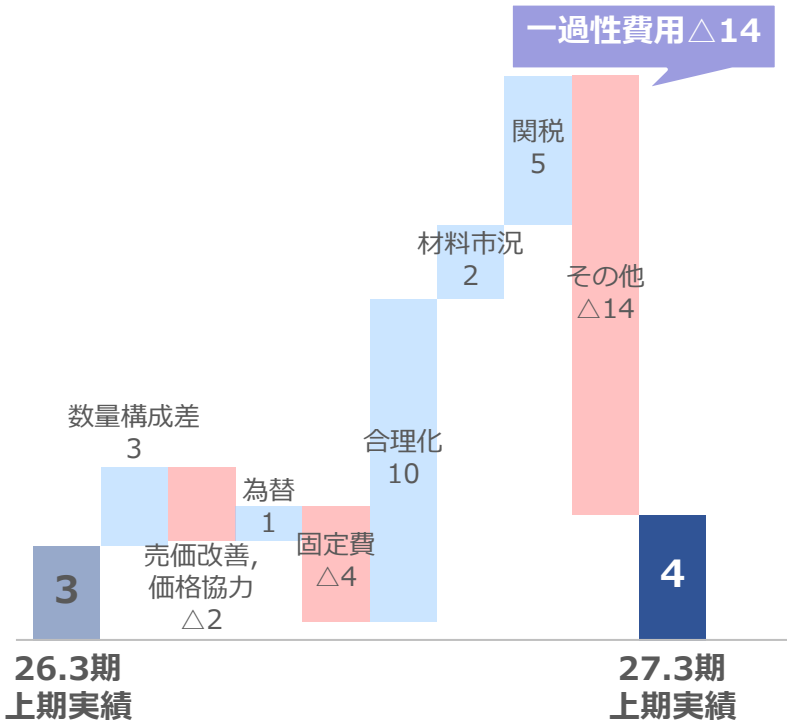
事業セグメント分析：懸架ばね

（単位：億円）

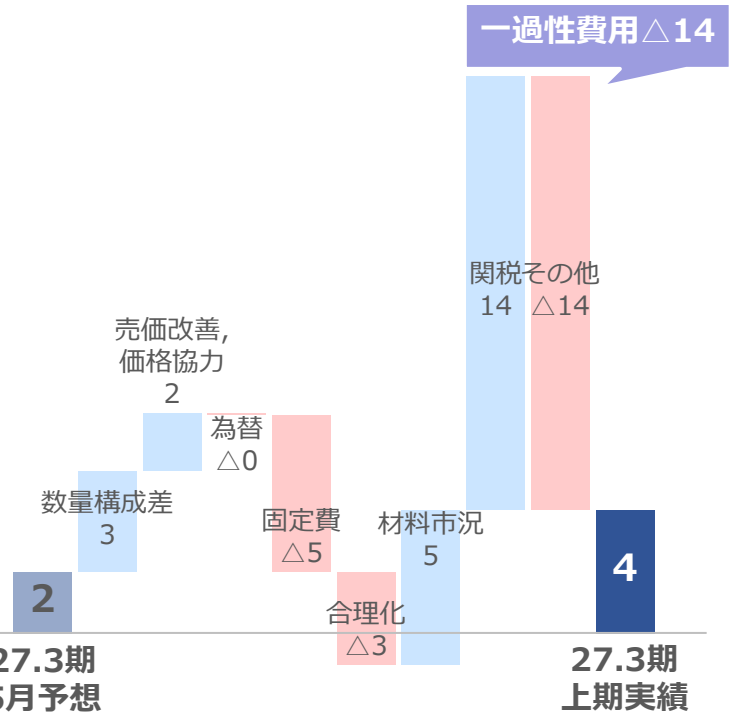
	26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
売上高	830	810	**879**	49	69
営業利益	3	2	**4**	1	2
営業利益率	0.4%	0.2%	**0.5%**	0.1%	0.3%

営業利益の変動要因分析

（対前年同期増減）



（対５月予想増減）



▽対前年同期実績

為替換算影響による53億円の増収効果があり、それを除くと減収。

日本国内では、主に 一過性費用の計上により赤字幅が拡大した。

米国２社およびメキシコでは、生産性改善や固定費の合理化に加え、関税の回収等により赤字幅が縮小し、全体として、増益となった。

▽対５月時点予想

増収69億円のうち28億は換算影響。

国内では、主に 一過性費用の計上により赤字幅が拡大した。

北米では、合理化の遅れ等はあるものの関税の回収が想定より先行して進んだことなどにより損失が縮小し、全体では、増益となった。

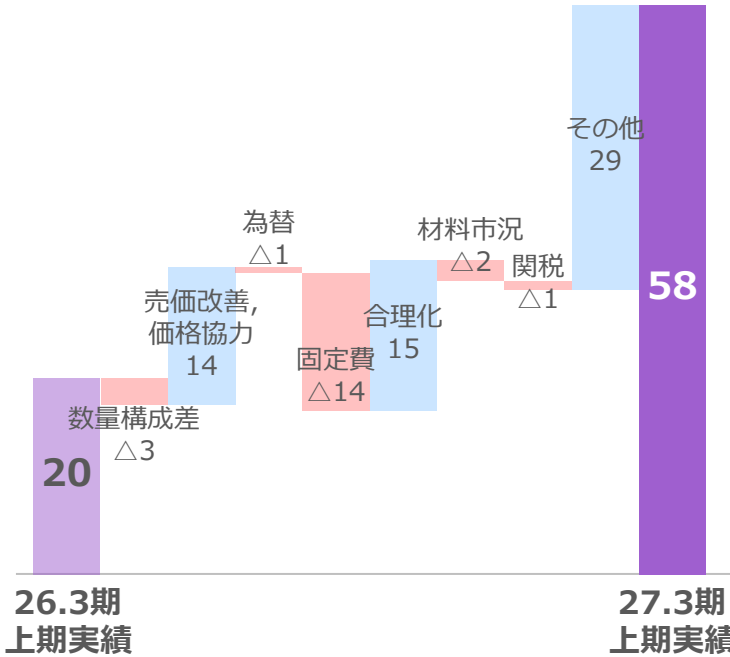
事業セグメント分析：シート

（単位：億円）

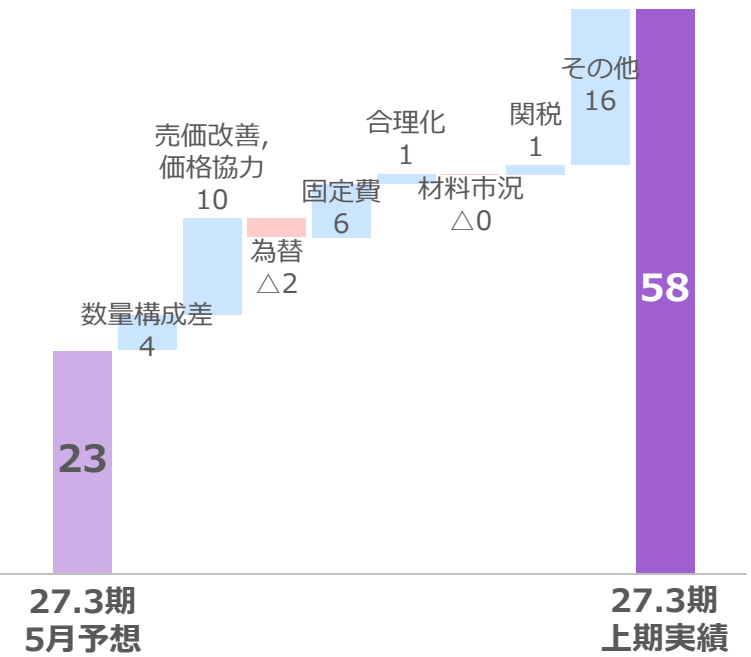
	26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
売上高	1,420	1,480	**1,528**	108	48
営業利益	20	23	**58**	38	35
営業利益率	1.4%	1.6%	**3.8%**	2.4%	2.2%

営業利益の変動要因分析

（対前年同期増減）



（対５月予想増減）



▽対前年同期実績

換算影響による増収が63億円。

国内では、一部客先の開発費売上回収方法の変更による一括計上に加え、売価改善や合理化等が寄与し増益となった。

一方、タイでは 主に 台数減少の影響により、減収減益となった。

北米では、台数増加に加えて、前年同期の一過性費用がなくなったこともあり、黒字に転換した。

▽対５月時点予想

増収48億円のうち34億は換算影響。

国内外で 全体としての台数が増加したことに加え、一部客先の開発費売上回収方法の変更による一括計上や売価改善等により、利益を押し上げた。

また、固定費等の抑制も寄与し、計画を上回る利益を確保した。

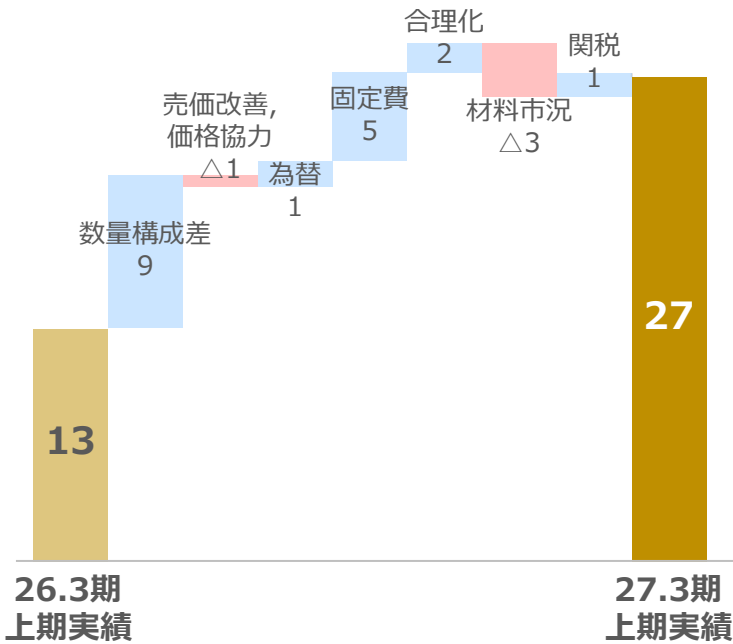
事業セグメント分析：精密部品

（単位：億円）

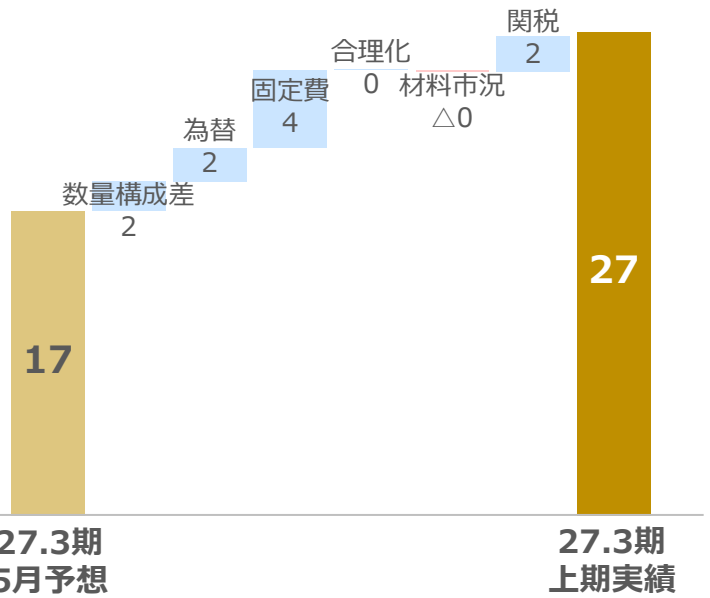
	26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
売上高	508	530	**562**	54	32
営業利益	13	17	**27**	14	10
営業利益率	2.6%	3.2%	**4.8%**	2.2%	1.6%

営業利益の変動要因分析

（対前年同期増減）



（対５月予想増減）



▽対前年同期実績

HDD用機構部品の数量増加に加え、自動車関連では、ニッパツ本体は数量減となったものの、国内グループ各社や北米で数量が増加し、全体では増益となった。

▽対５月時点予想

国内外の子会社において 概ね予想を上回って推移したことなどから、全体では計画を上回る利益となった。

また、関税負担に対する回収が想定を上回ったことも寄与した。

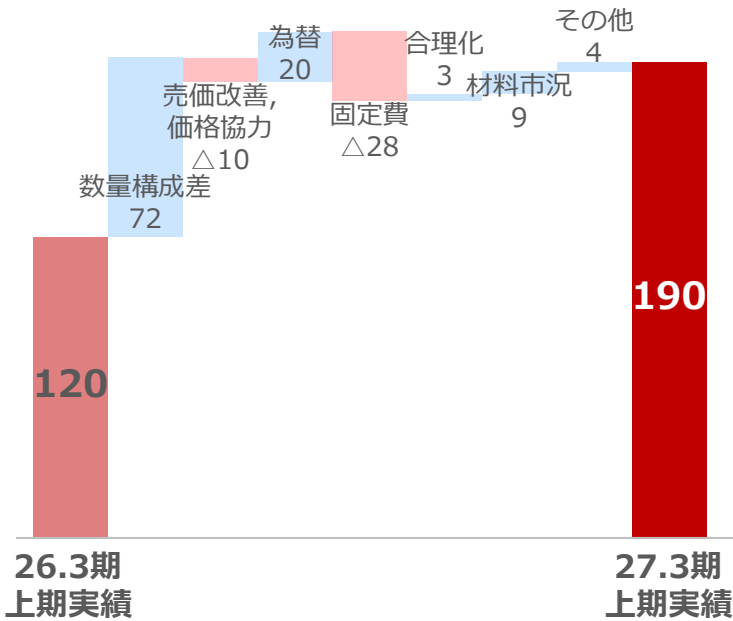
事業セグメント分析：DDS

（単位：億円）

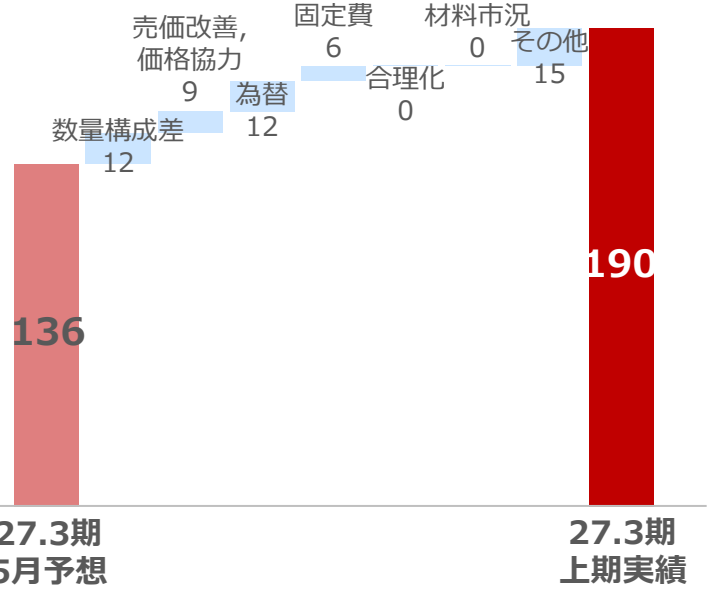
	26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
売上高	600	690	**762**	162	72
営業利益	120	136	**190**	70	54
営業利益率	20.1%	19.7%	**25.0%**	4.9%	5.3%

営業利益の変動要因分析

（対前年同期増減）



（対５月予想増減）



▽対前年同期実績

データセンター向け高容量HDDの需要は継続するなか、HDD用サスペンションの売上数量も好調に推移した。これに加え、ドル円の為替による利益の押し上げ等も寄与し、増収増益となった。

▽対５月時点予想

タイでは、HDDサスペンションの需要が当初計画を上回った。

国内でも試作数量が増加したことに加え円安による為替影響も追い風となり、増収増益となった。

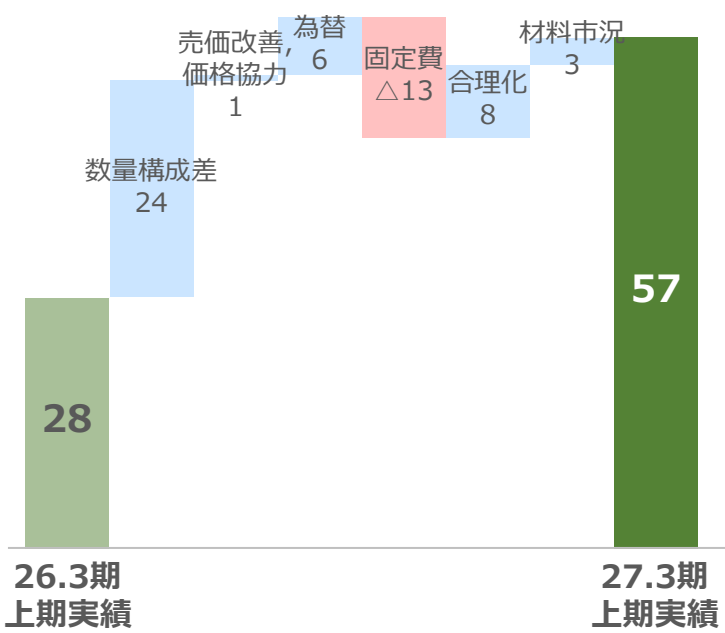
事業セグメント分析：産業機器ほか

（単位：億円）

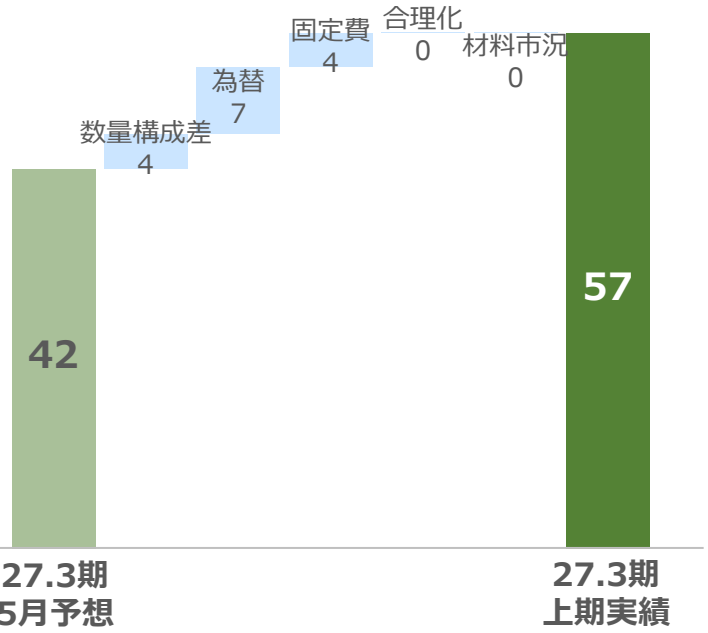
	26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対５月予想 増減
売上高	580	650	**674**	94	24
営業利益	28	42	**57**	29	15
営業利益率	4.9%	6.5%	**8.5%**	3.6%	2.0%

営業利益の変動要因分析

（対前年同期増減）



（対５月予想増減）



▽対前年同期実績

半導体プロセス部品は 数量増加に加え 円安による為替影響もあり、利益を伸ばした。金属基板の数量も増加し、また前期に実施した減損に伴う償却費負担の軽減効果もあり、全体で増収増益となった。

▽対５月時点予想

半導体プロセス部品は 円安による為替影響等により増益となり、金属基板は計画並みに着地した。加えて、固定費等の減少も寄与し、増益を確保した。

営業外損益

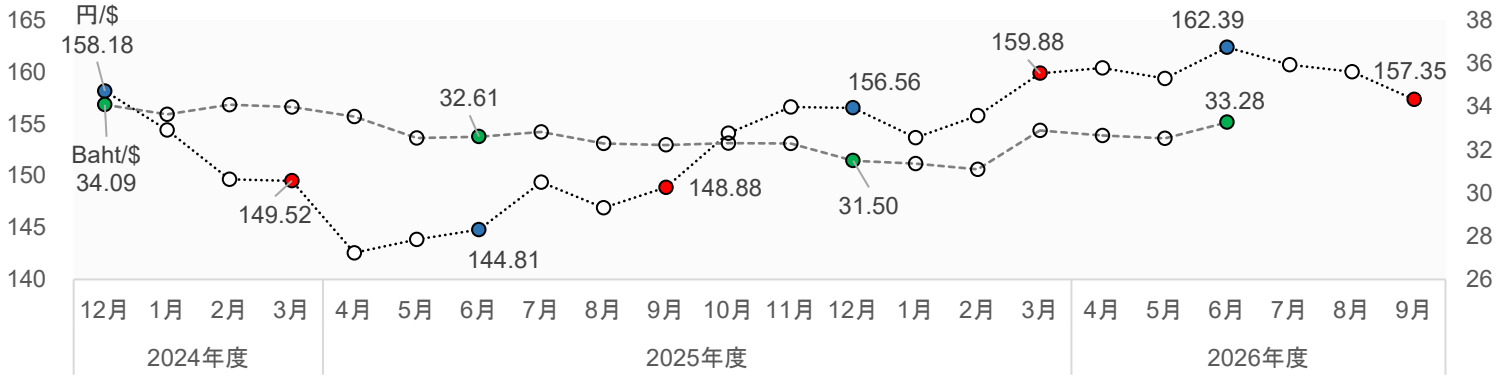
（単位：億円）

NHKニッパツ NHK SPRING CO.,LTD.

営業外損益 主な内訳

科目		26.3期 上期実績	27.3期上期 5月時点予想	27.3期上期 実績	対前年同期 増減	対5月予想 増減
営業外損益	為替差損益（日本）	△1	－	**△9**	△8	△9
	為替差損益（アジア・米欧ほか）	△24	△20	**34**	58	54
	受取配当金	17	28	**25**	8	△3
	受取利息	11	12	**12**	1	0
	持分法投資損益	4	3	**2**	△2	△1
	その他	5	1	**2**	△3	1
	計	12	24	**66**	54	42

▽ドル円 / ドルBaht為替変動



▽為替差損益

前年度は、主に 12月決算会社で、6月末にかけてドル安が進行したことから、為替差損が発生した。

当期は、９月末にかけた円高ドル安の進行により、日本国内の事業拠点において為替差損が発生した一方、12月決算会社では、６月末にかけてドル高方向に変動したため、為替差益を計上した。

［為替差損益 拠点別 前期差内訳（億円）］

	決算月	26.3期 上期実績	27.3期 上期実績	対前年同期 増減
日本	3月	△1	**△9**	△8
タイ	12月	△21	**34**	56
メキシコ	12月	△1	**1**	3
その他	-	△1	**△2**	0
合計	-	△25	**25**	51

27.3期 通期業績予想

27.3期 通期業績予想

（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

			26.3期	27.3期		増減	
			実績	5月時点予想	今回予想	対前期	対５月予想
売上高			**8,168**	**8,600**	**9,100**	**931**	**500**
営業利益			**457**	**590**	**720**	**262**	**130**
営業利益率			5.6%	6.9%	7.9%	2.3%	1.1%
経常利益			**521**	**640**	**750**	**228**	**110**
経常利益率			6.4%	7.4%	8.2%	1.9%	0.8%
親会社株主に帰属する当期純利益			**278**	**450**	**500**	**221**	**50**
平均為替レート	ＵＳ＄		151.0	150.0	155.4	4.0	5.0
	タイバーツ		4.6	4.8	4.8	0.3	0.1
期末為替レート	ＵＳ＄	（当期）	159.9	150.0	150.0	△9.9	–
		（前期）	149.5	159.9	159.9	10.4	–
	タイバーツ	（当期）	5.0	4.8	4.8	△0.2	–
		（前期）	4.6	5.0	5.0	0.4	–

27.3期 通期業績予想

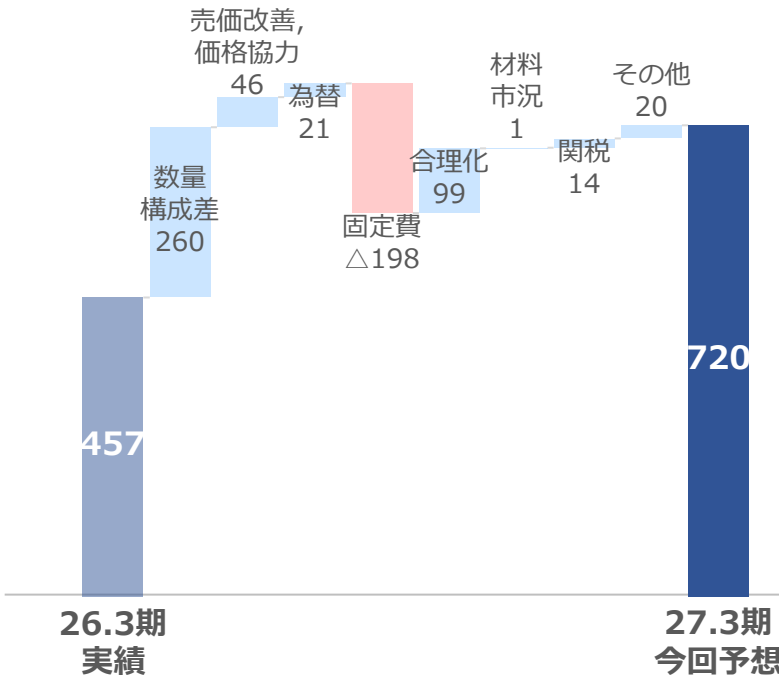
営業利益の変動要因分析

（単位：億円）

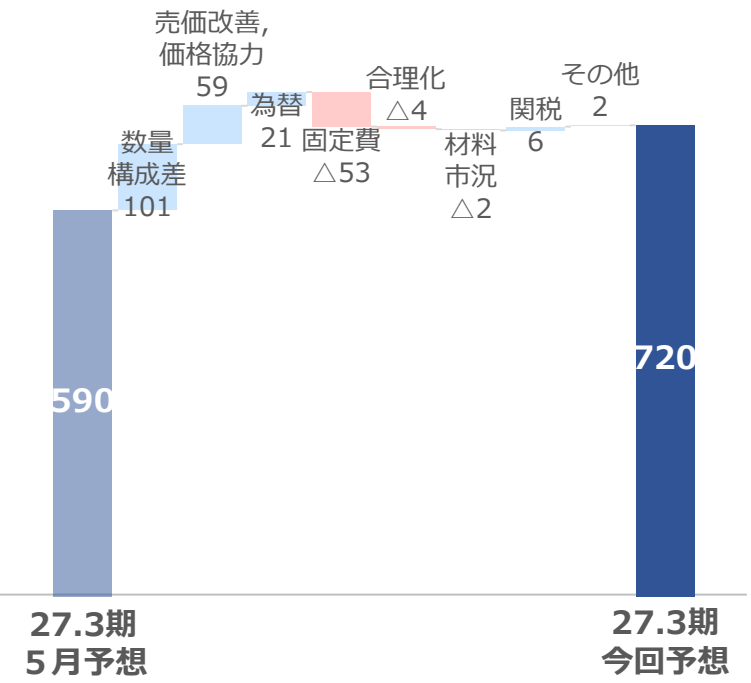
	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 実績	対前期 増減	対５月予想 増減
売上高	8,168	8,600	**9,100**	931	500
営業利益	457	590	**720**	262	130
営業利益率	5.6%	6.9%	**7.9%**	2.3%	1.1%

営業利益の変動要因分析

（対前期増減）



（対５月予想増減）



▽対前期実績

HDD関連部品および半導体プロセス部品の好調に加え、円安による利益の押し上げや合理化等が寄与し、増収増益となる見通し。

▽対５月時点予想

HDD関連部品および半導体プロセス部品は好調に推移し、売価改善や為替による利益の押上等もあり、期初予想に対して増収増益を見込む。

27.3期 通期業績予想

事業セグメント別売上高・営業利益の予想

（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

		26.3期	27.3期通期		対前期	対５月予想
		実績	5月時点予想	今回予想	増減	増減
■懸架ばね	売上高	1,674	1,640	**1,750**	75	110
	営業利益	7	40	**28**	20	△12
	営業利益率	0.4%	2.4%	**1.6%**	1.2%	△0.8%
■シート	売上高	2,925	3,110	**3,200**	274	90
	営業利益	80	90	**110**	29	20
	営業利益率	2.8%	2.9%	**3.4%**	0.7%	0.5%
■精密部品	売上高	1,056	1,080	**1,140**	83	60
	営業利益	36	50	**55**	18	5
	営業利益率	3.5%	4.6%	**4.8%**	1.4%	0.2%
■ＤＤＳ	売上高	1,267	1,440	**1,600**	332	160
	営業利益	260	300	**382**	121	82
	営業利益率	20.6%	20.8%	**23.9%**	3.3%	3.0%
■産業機器ほか	売上高	1,245	1,330	**1,410**	164	80
	営業利益	72	110	**145**	72	35
	営業利益率	5.9%	8.3%	**10.3%**	4.4%	2.0%
合計	売上高	8,168	8,600	**9,100**	931	500
	営業利益	457	590	**720**	262	130
	営業利益率	5.6%	6.9%	**7.9%**	2.3%	1.1%

27.3期 通期業績予想

地域セグメント別売上高・営業利益の予想

（単位：億円）

		26.3期 実績	27.3期通期 5月時点予想	27.3期通期 今回予想	対前期 増減	対5月予想 増減
●日本	売上高	4,613	4,848	**5,153**	539	305
	営業利益	347	314	**423**	75	109
	営業利益率	7.5%	6.5%	**8.2%**	0.7%	1.7%
●アジア	売上高	2,189	2,404	**2,460**	270	56
	営業利益	173	261	**279**	105	18
	営業利益率	7.9%	10.9%	**11.3%**	3.4%	0.5%
●米欧ほか	売上高	1,365	1,348	**1,487**	121	139
	営業利益	△63	15	**18**	81	3
	営業利益率	△4.6%	1.1%	**1.2%**	5.8%	0.1%
合計	売上高	8,168	8,600	**9,100**	931	500
	営業利益	457	590	**720**	262	130
	営業利益率	5.6%	6.9%	**7.9%**	2.3%	1.1%

27.3期 通期業績予想

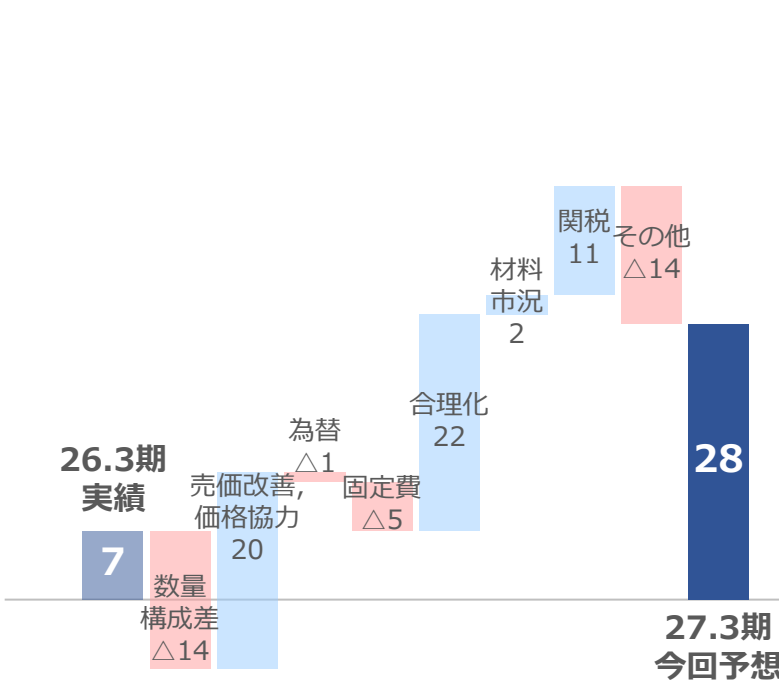
事業セグメント分析：懸架ばね

（単位：億円）

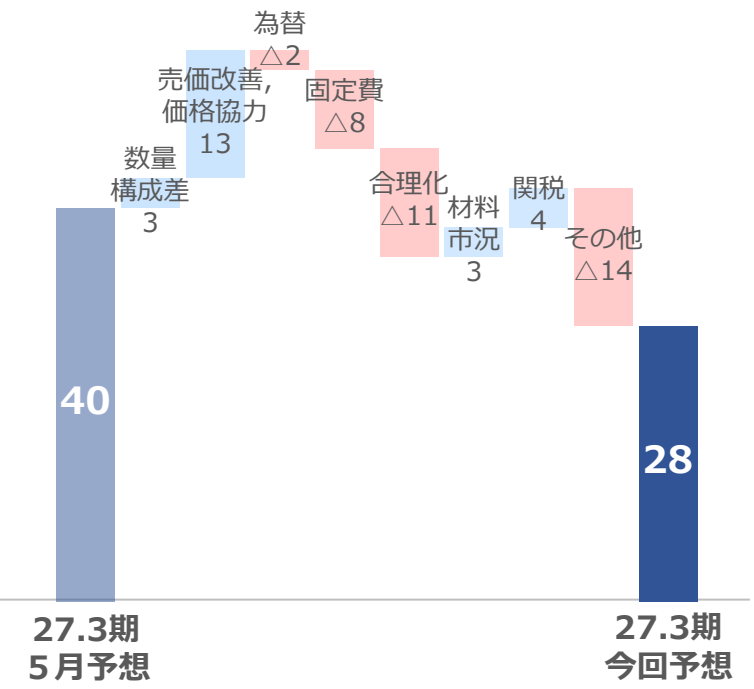
	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 今回予想	対前期 増減	対５月予想 増減
売上高	1,674	1,640	**1,750**	75	110
営業利益	7	40	**28**	20	△12
営業利益率	0.4%	2.4%	**1.6%**	1.2%	△0.8%

営業利益の変動要因分析

（対前期増減）



（対５月予想増減）



▽対前期実績

日本・中国における数量減や 一過性費用の影響は受けるものの、海外拠点を中心とした合理化努力や売価改善・諸費用回収が寄与し 増収増益となる見通し。

▽対５月時点予想

売価改善や諸費用回収は織り込むものの、米欧における合理化の遅れや一過性費用の影響により、期初予想に対しては減益の見通し。

27.3期 通期業績予想

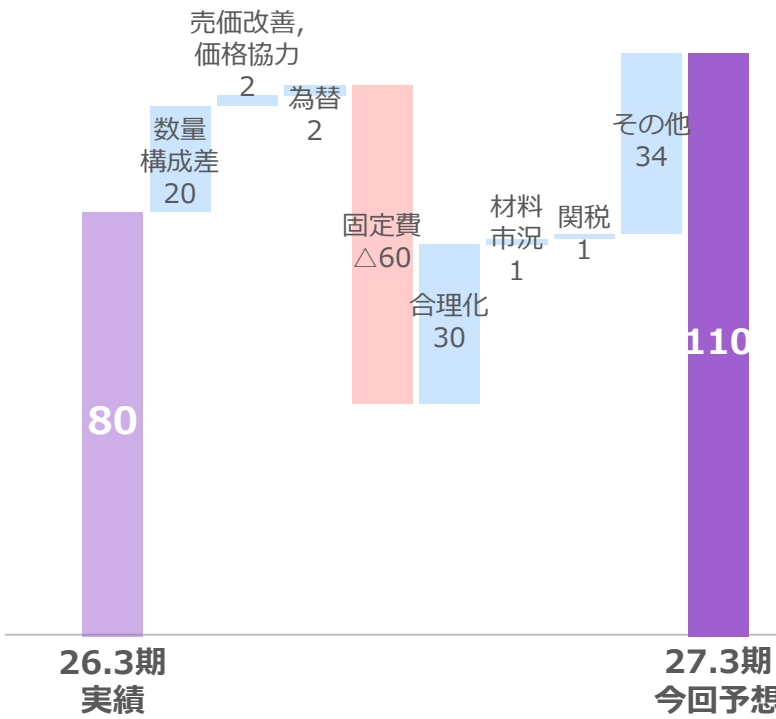
事業セグメント分析：シート

（単位：億円）

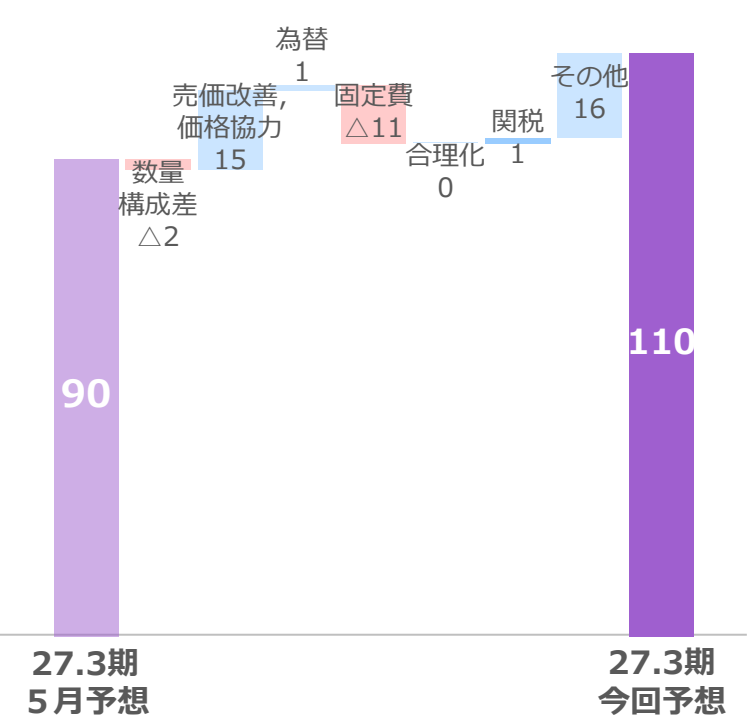
	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 今回予想	対前期 増減	対５月予想 増減
売上高	2,925	3,110	**3,200**	274	90
営業利益	80	90	**110**	29	20
営業利益率	2.8%	2.9%	**3.4%**	0.7%	0.5%

営業利益の変動要因分析

（対前期増減）



（対５月予想増減）



▽対前期実績

人的資本やDX等の将来投資による固定費増はあるものの、前年度に生じた北米の一過性費用の解消、日本・タイ・北米を中心とした積極的な合理化の積み上げ、さらに開発費売上の計上が寄与し増収増益となる見込み。

▽対５月時点予想

一部拠点の数量増に伴う固定費増や、全体的な構成変化の影響はあるものの、売価改善努力と開発費売上の計上が利益を押し上げ増収増益を確保できる見込み。

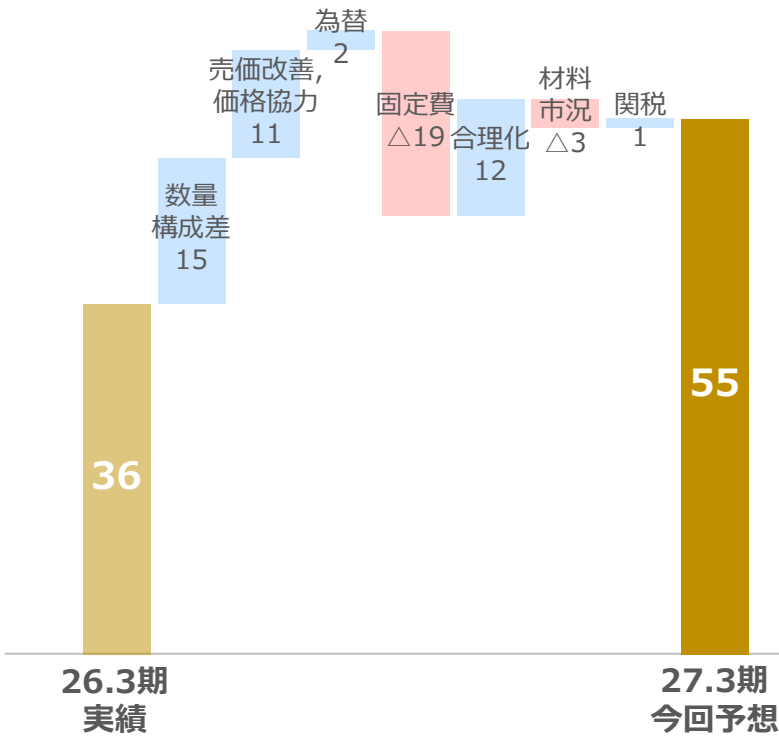
事業セグメント分析：精密部品

（単位：億円）

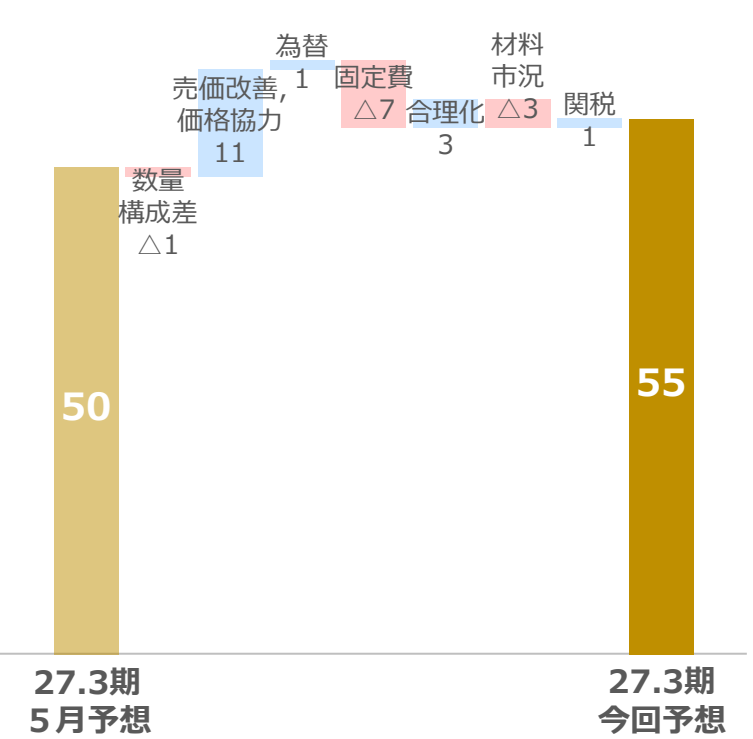
	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 今回予想	対前期 増減	対５月予想 増減
売上高	1,056	1,080	**1,140**	83	60
営業利益	36	50	**55**	18	5
営業利益率	3.5%	4.6%	**4.8%**	1.4%	0.2%

営業利益の変動要因分析

（対前期増減）



（対５月予想増減）



▽対前期実績

人的資本やDX等の将来投資による固定費増や 中国における数量減影響はあるものの、タイのHDD用機構部品の数量増、北米拠点の収益性改善等が寄与し 増収増益となる見込み。

▽対５月時点予想

日本・中国における自動車関連事業の数量減や材料市況影響は受けるものの、売価改善・合理化効果が寄与し 増収増益の見通し。

27.3期 通期業績予想

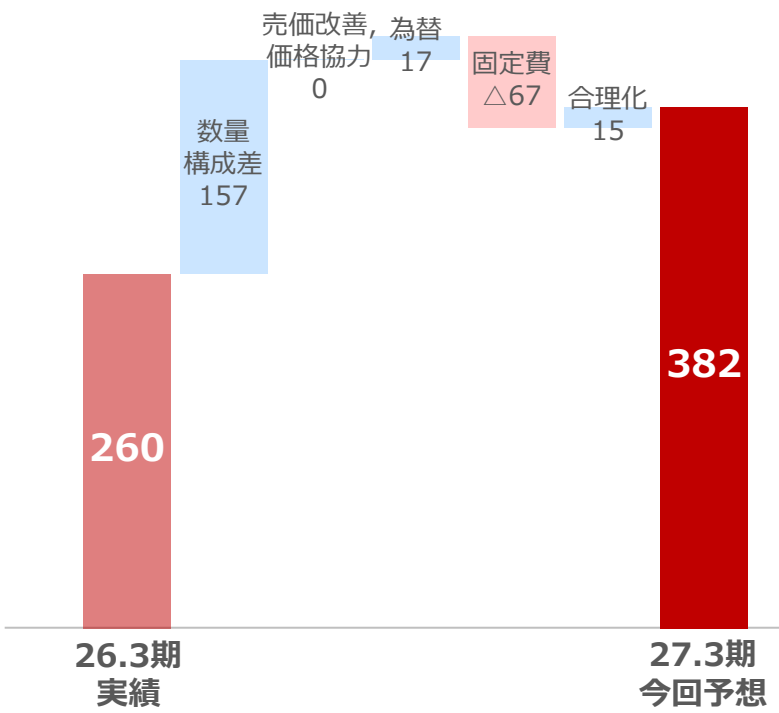
事業セグメント分析：DDS

（単位：億円）

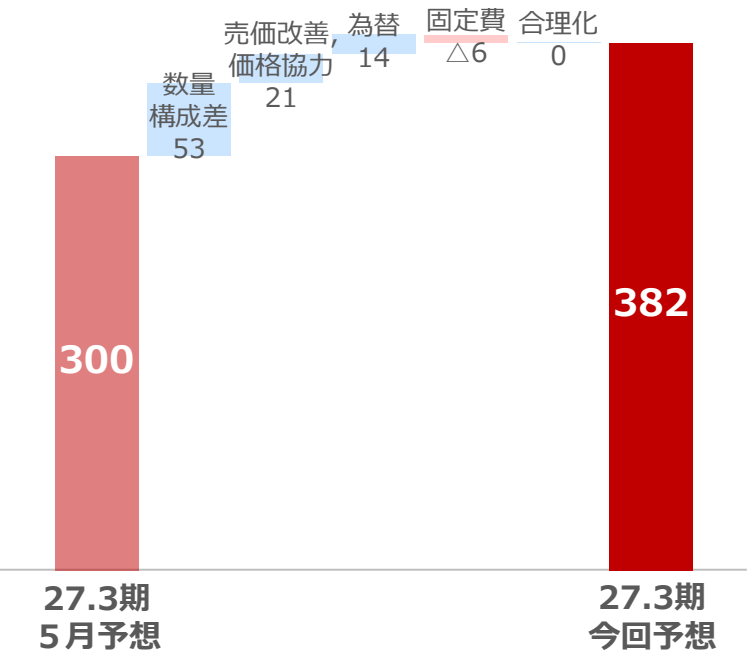
	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 今回予想	対前期 増減	対５月予想 増減
売上高	1,267	1,440	**1,600**	332	160
営業利益	260	300	**382**	121	82
営業利益率	20.6%	20.8%	**23.9%**	3.3%	3.0%

営業利益の変動要因分析

（対前期増減）



（対５月予想増減）



▽対前期実績

人的資本やDX等の将来投資による固定費増はあるものの、HDD用サスペンションの数量増が大きく寄与。さらに為替による押上や合理化効果も加わり、前年を大きく上回る営業利益を確保できる見通し。

▽対５月時点予想

タイ・中国の数量増や 日本における試作数量増、さらに為替による利益押上などが寄与し 増収増益となる見込み。

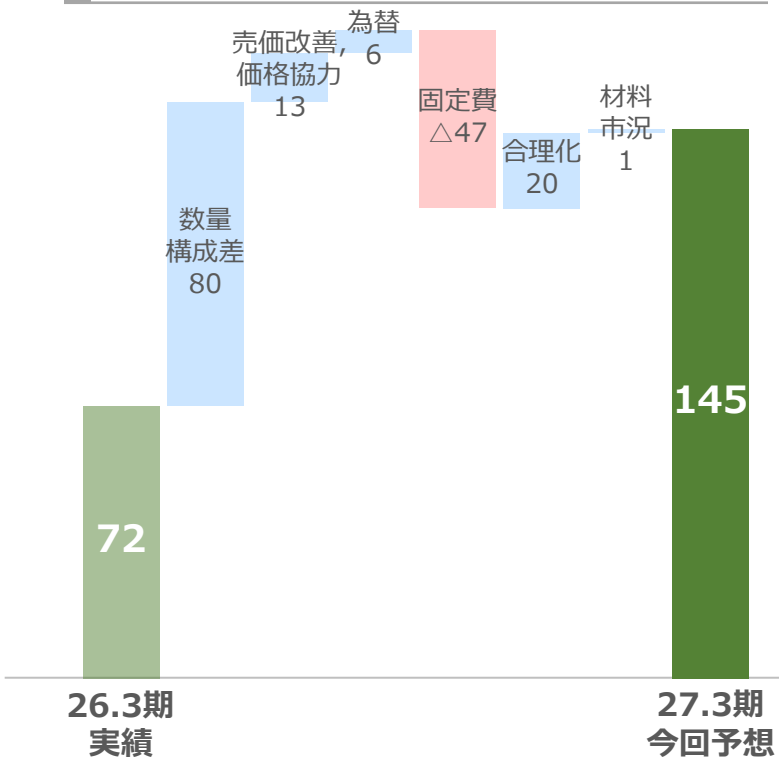
事業セグメント分析：産業機器ほか

（単位：億円）

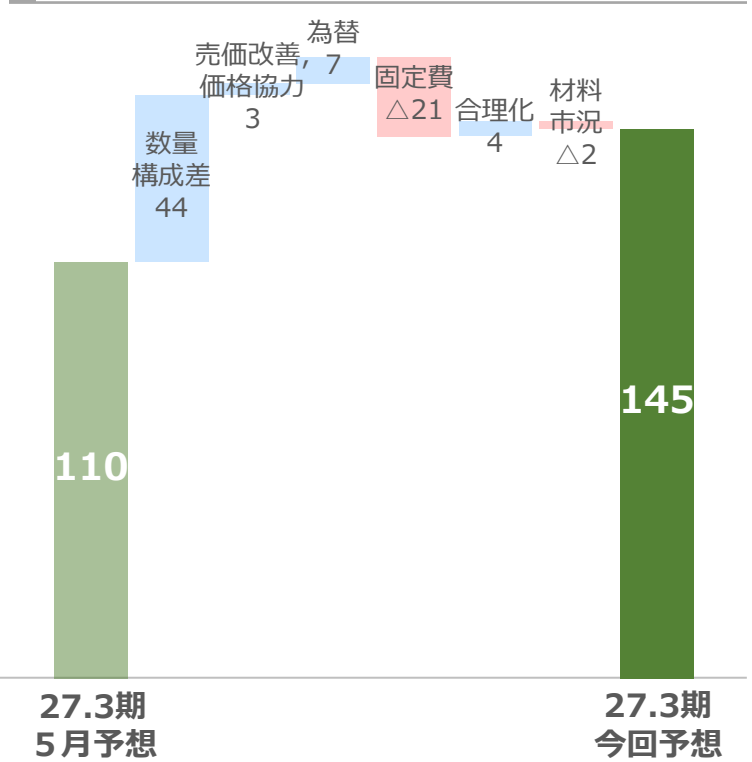
	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 今回予想	対前期 増減	対５月予想 増減
売上高	1,245	1,330	**1,410**	164	80
営業利益	72	110	**145**	72	35
営業利益率	5.9%	8.3%	**10.3%**	4.4%	2.0%

営業利益の変動要因分析

（対前期増減）



（対５月予想増減）



▽対前期実績

半導体プロセス部品は半導体市場の需要拡大に伴い好調に推移。合理化効果も寄与し、前年を大きく上回る営業利益を確保できる見込み。

▽対５月時点予想

半導体需要の拡大を背景に 当社の成長事業である半導体プロセス部品も当初想定を超える売上数量で推移。さらに為替による利益の押上等も寄与し 増収増益の見込み。

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

将来に向けた投資
～ＤＤＳ、半導体関連等～

代表取締役社長
COO

上村　和久

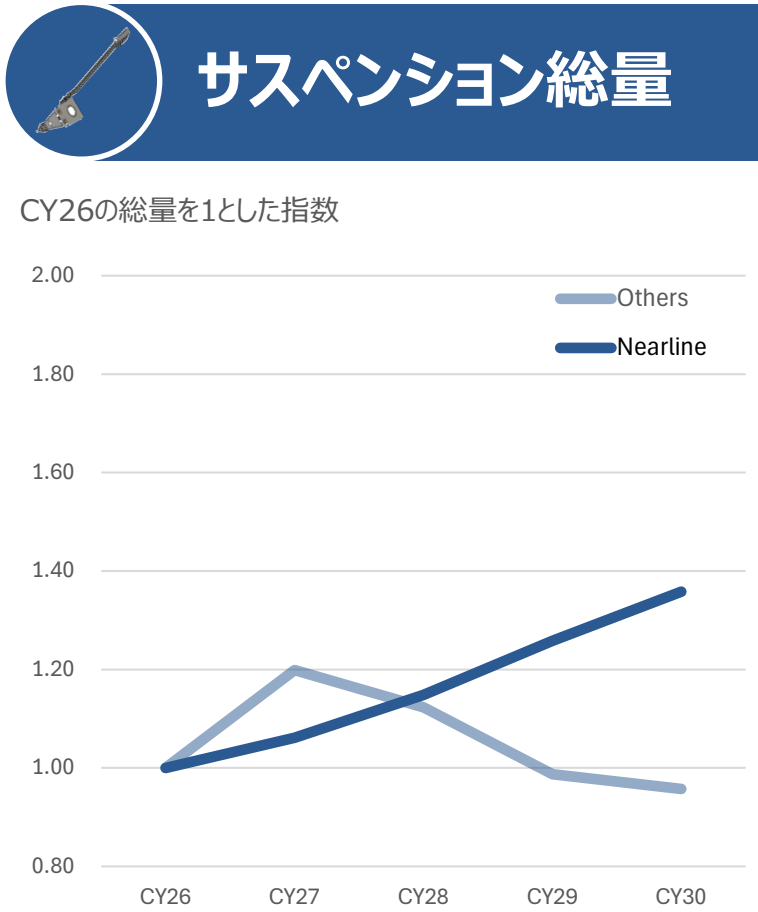
1-1. DDSの市場環境

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

HDD台数



サスペンション総量



HDD1台当たりサスペンション使用本数

Nearline向け

現在（CY26）	• 1台のHDD当たり約20本。
今後	• 1台のHDD当たり約22本まで増加見込。

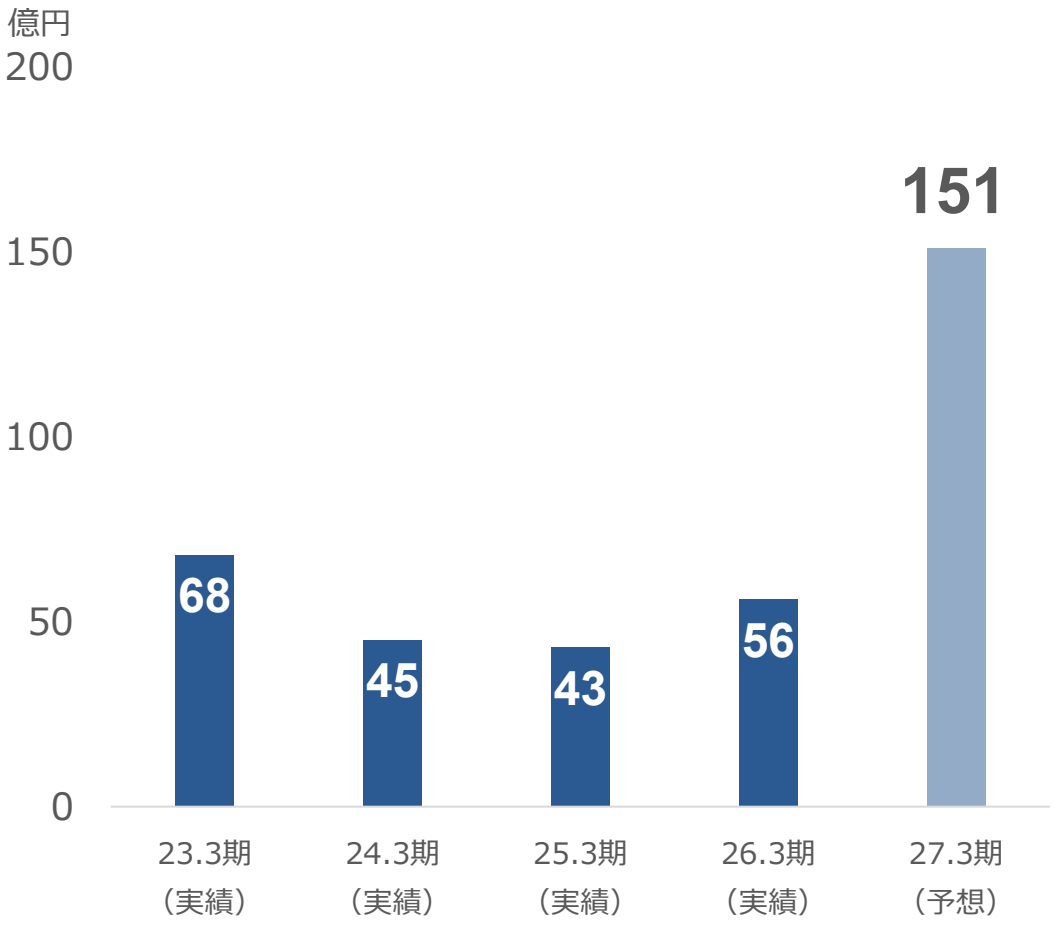
出典： 各種資料より弊社作成

ニアライン向けサスペンション需要が継続して拡大

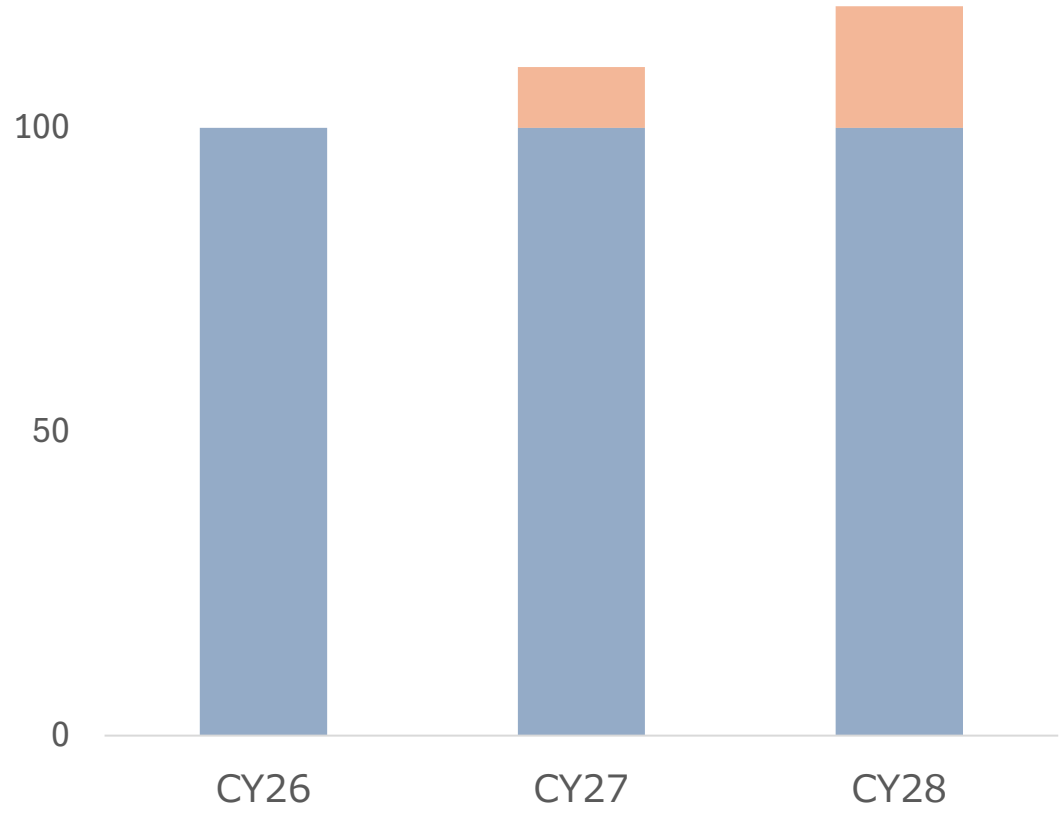
1-2. DDSの設備投資推移と生産キャパシティ

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

設備投資金額推移



26年以降
キャパシティ増強

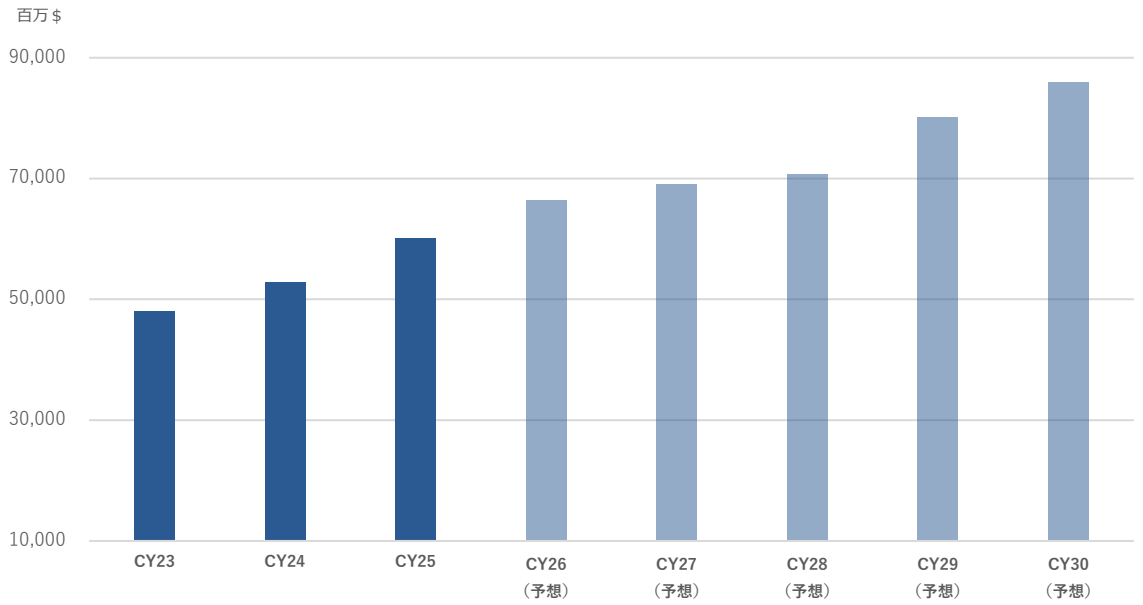


現行キャパシティ＝100とした場合の需要予測

2-1.半導体関連事業の拡大戦略

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

半導体製造装置市場（成膜・エッチング装置）



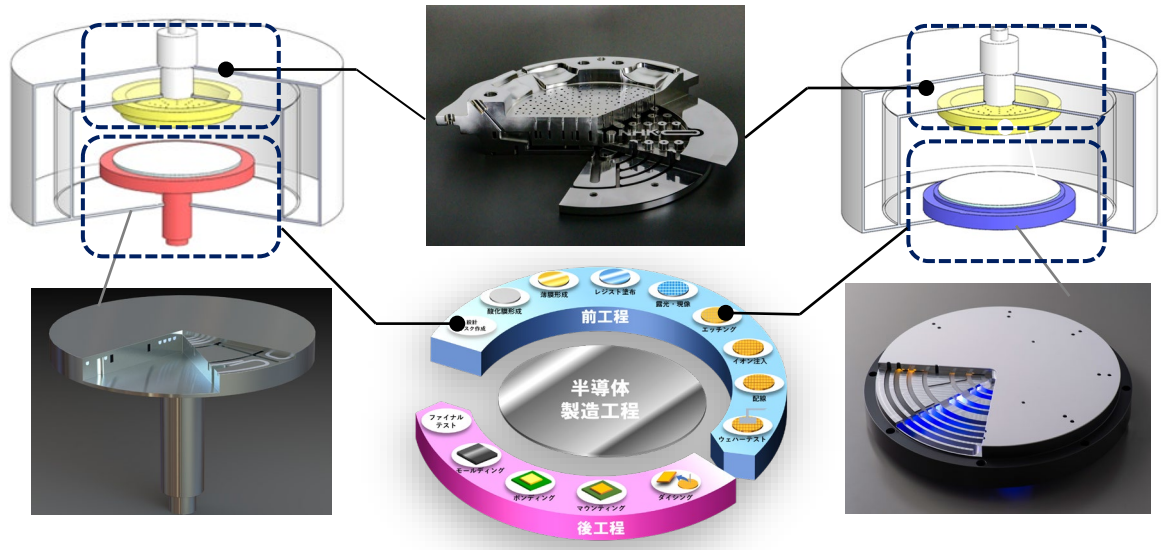
出典：各種資料より弊社作成

半導体プロセス部品とは

【成膜工程】 ヒーター

【成膜/エッチング工程】 シャワーヘッド

【エッチング工程】 冷却板



- 生成AIの普及を背景に、AIデータセンター向け投資が加速
- AI・先端半導体向け製造装置市場が持続的に拡大
- 先端半導体の微細化・高性能化が、半導体プロセス部品の高付加価値化を促進

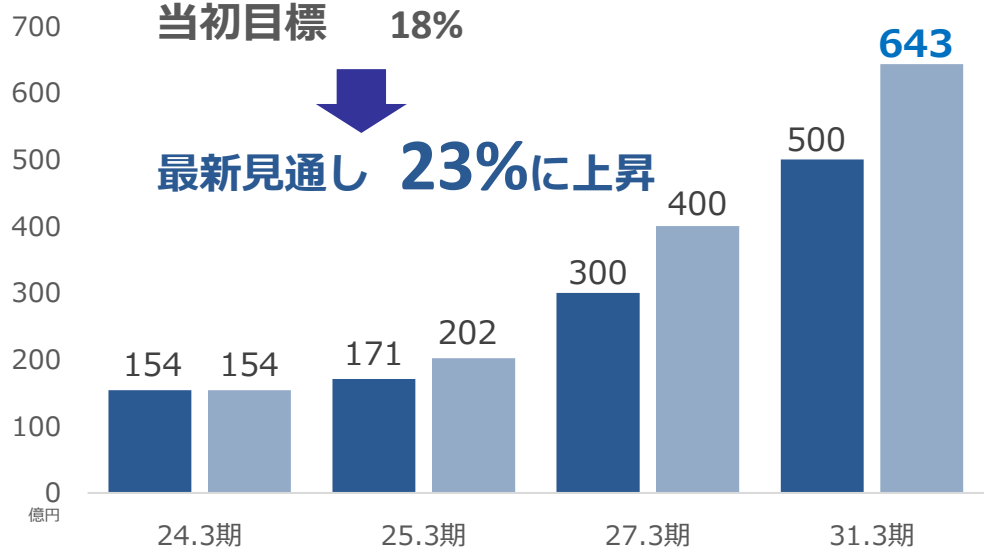
2-2.半導体関連事業の拡大戦略

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

ニッパツの強み

- 接合・機械加工・溶射をはじめとする幅広いコア技術
- 開発・設計から加工、組立までの一貫対応力
- 高度な温度制御解析技術による最適設計提案
- 需要拡大にも対応可能な生産能力と供給キャパシティ

売上高年平均成長率(CAGR)



能力増強


宮田工場

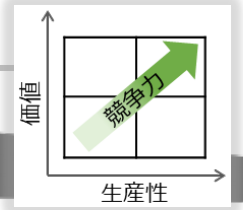
- 拡大する需要に対応するため、伊勢原・宮田工場の能力増強を計画（投資額約60億円）
- 先端半導体の持続的拡大を見据え、段階的な生産能力増強を推進（現行比2倍の能力増強を視野）

勝ち筋：先端半導体需要を取り込み、DDS事業に続く収益の柱へ成長

3-1. DX活動による競争力強化

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

弊社内部資料より抜粋



ニッパツDX

IT・デジタル・データを活用し、業務問題をより高度に解決する（手段）➡ 競争力強化（目的）

各本部
独自テーマ

- ばね
- シート
- 精密
- DDS
- 産機
- 電推
- 営業
- 研本
- 技本
- 企管
- 購買
- 内監

製品価値向上

MDX Manufacturing/Monozukuri DX

技本DXPJと協業

CAEやデータを活用した性能予測技術構築
CAEを活用した実験代用技術構築
生産計画の高度化
計画と実績見える化
データによる良否判定自工程完結

構想検討 → RFQ仕様検討・回答 → 試作仕様検討 → 試作 → 評価 → 量産仕様検討 → 量産試作 → 評価 → 量産立ち上げ(SOP) → 内示・オーダー → 生産計画・指示 → 部材購入 → 製造工程① → 製造工程② → ・・・ → 検査 → 出荷 → 請求

工程設計
生産設備設計
バーチャル作業検証
工程改善
設備改善

3Dデータを活用した設計自動化

解明した原理を標準化 → 日常業務へ落とし込む

データ活用による品質管理→改善

原理解明

多変量データ・IT・デジタル活用によるメカニズム解明

原理解明（メカニズム解明）
- 「性能」⇔「形状・寸法」の因果関係・相関関係
- 不良・不具合の原因特定

CAEを活用した原理解明
データ取得の仕組み作り
データ分析

ODX Operation DX

技本DXPJと協業

仕事の生産性と人の価値の向上

“ひと”しか出来ない事を“ひと”がやる

部門横断業務プロセス改善

手元業務改善
DXツールを活用した作業効率化
DXツール活用実践トレーニング

◆DX人材育成





デジタル企画人材育成（ワークショップ：選抜制）

デジタル活用人材育成（ワークショップ：選抜制）

リテラシー習得（eラーニング：全社員）

3-2. DX活動による競争力強化

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

- DXによる業務改革
  - ものづくりDX*
    - 懸架ばね
    - シート
    - 精密部品
    - DDS
    - 産業機器ほか
  - 事務系DX
  - DX人材育成

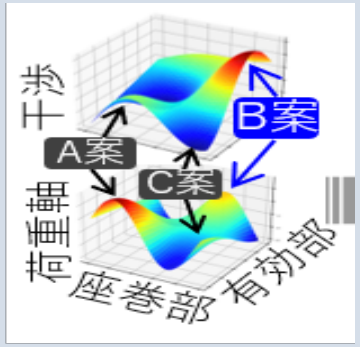
FY26より開始

最適設計解を探索し具現化する技術構築

課題 お客様の全要望を満たす設計案導出

取り組み **「セットベース設計」の導入**

すべての要求の組合せを効率的に解析して、要求を満たす範囲を割り出し、複数の形状案を導き出す設計手法を構築。



課題 難しい設計形状の具現化

取り組み **「製造フィードバック技術」の導入**

属人的スキル・習熟度に依ることなく、試作・量産段階で設計形状通りに具現化が可能。



足元の効果
- お客様への提案バリエーションの拡充
- 試作時間および量産準備時間の短縮

今後の展望
お客様との関係を深めながら、車両の操縦安定性、乗り心地性能の向上やコスト最適化に貢献。将来の競争力・収益力を向上。

*MDX（Manufacturing / Monozukuri DX）

3-3. DX活動による競争力強化

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

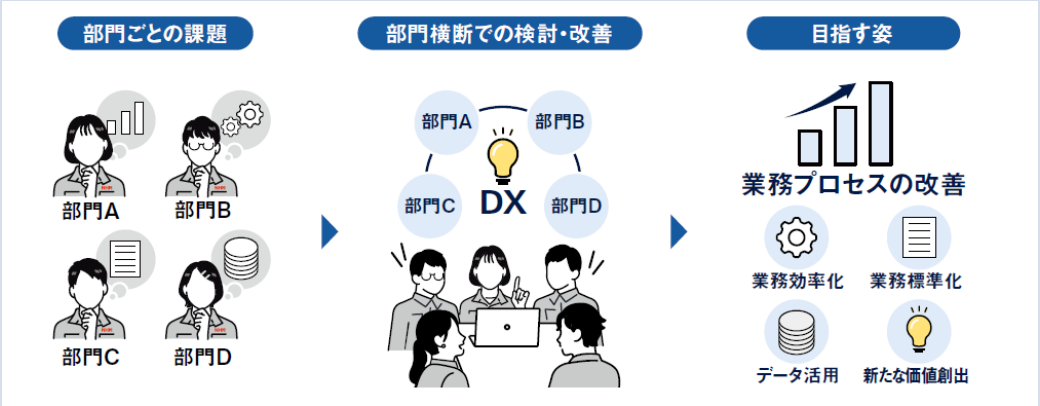
DXによる業務改革

- ものづくりDX
- 事務系DX
- DX人材育成

FY26より開始

ODX（Operation DX）　事務業務や、事務手続を効率化。価値の高い業務に注力できる環境を整備。

部門横断での複雑な業務プロセスの改善	手元業務の改善とDXによる改善の定着
• 部門内外で発生する複雑な業務プロセスや情報連携の課題解決に取り組む。 • 関係部門が連携し、業務プロセスを見直し、デジタル技術を活用。全社的に業務効率化を図る。	• 選抜担当者により、課題を抽出し、デジタル技術を活用した改善に取り組む。 • DXによる業務改善が日常的に行われる組織文化を醸成。



DX人材育成

DX改善改革を牽引する人材の育成	• 選抜メンバーを対象にIT研修実施、全社課題・業務プロセス変革の実行人材を育成。 • 研修内容を活かし、2027年より実際に改善改革を推進。
全社員を対象としたDXリテラシー研修	• 経営層及び全社員を対象に2025年度よりEラーニングを実施。 • 2026年度はAI活用のハンズオン研修も導入。DXリテラシーを底上げ。

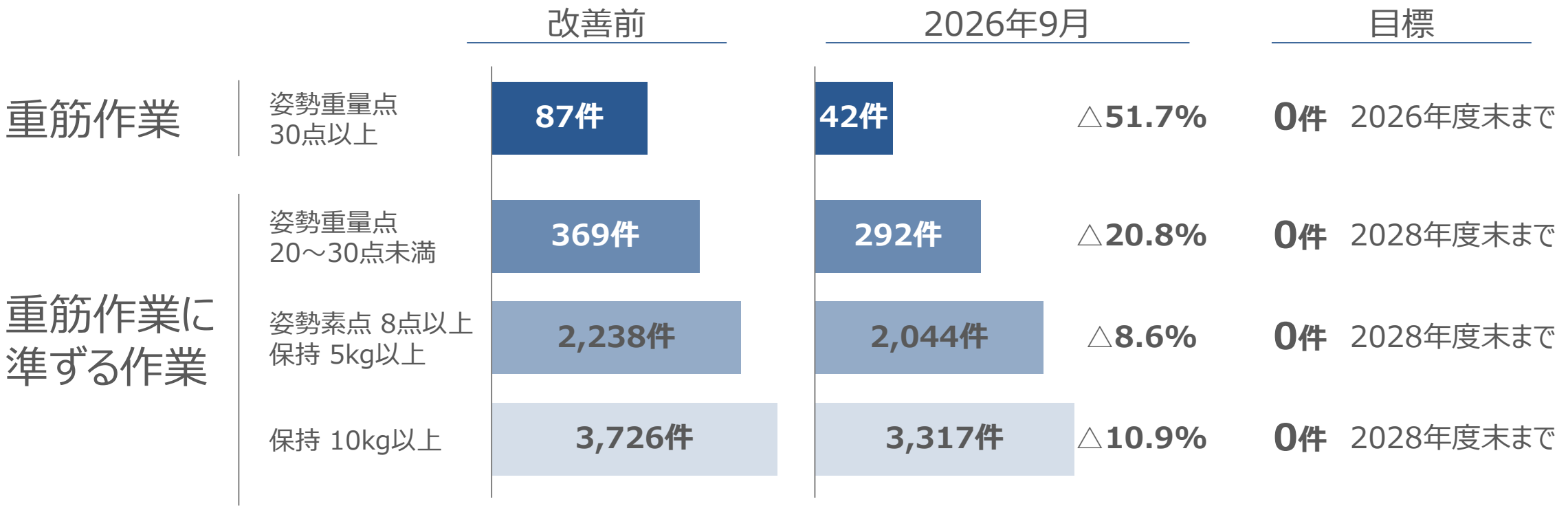
*ODX（Operation DX）

4. 従業員の職場環境改善

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

- 負担作業の軽減による、従業員の生産性向上
- 少子高齢化・人口減少の環境下で、従業員の確保

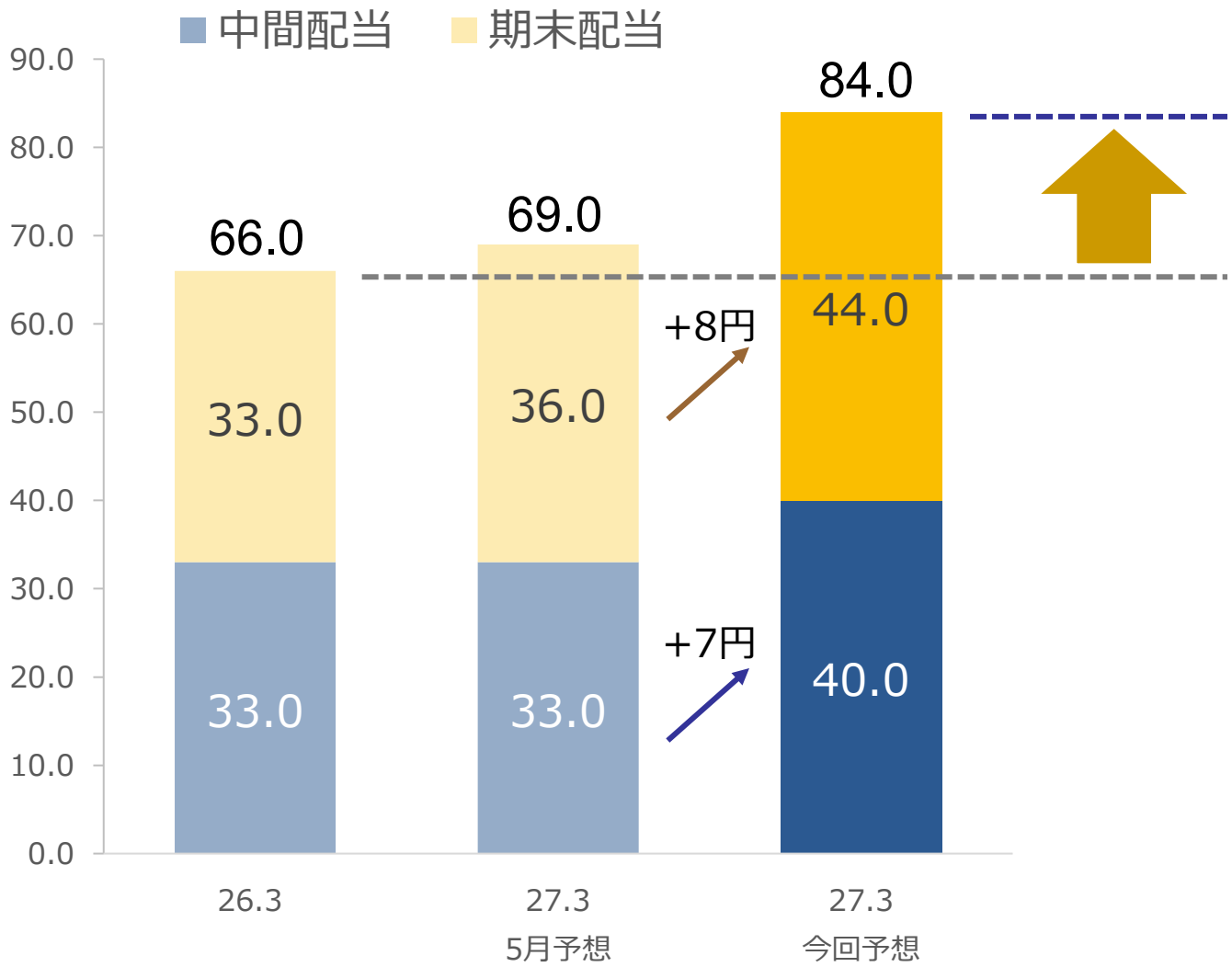
→ 重筋作業の解消



※1 姿勢重量点：作業姿勢と重量物の取扱い負荷を作業時間などもかけ併せて総合的に評価した指標。点数が高いほど身体への負担が大きいことを示す。
※2 姿勢素点：作業時の姿勢による身体負担の大きさを数値化した評価指標。点数が高いほど身体への負担が大きいことを示す。

5. 株主還元

１株当たり配当額推移



対前期比　＋18円

対5月予想比　＋15円

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

補足資料

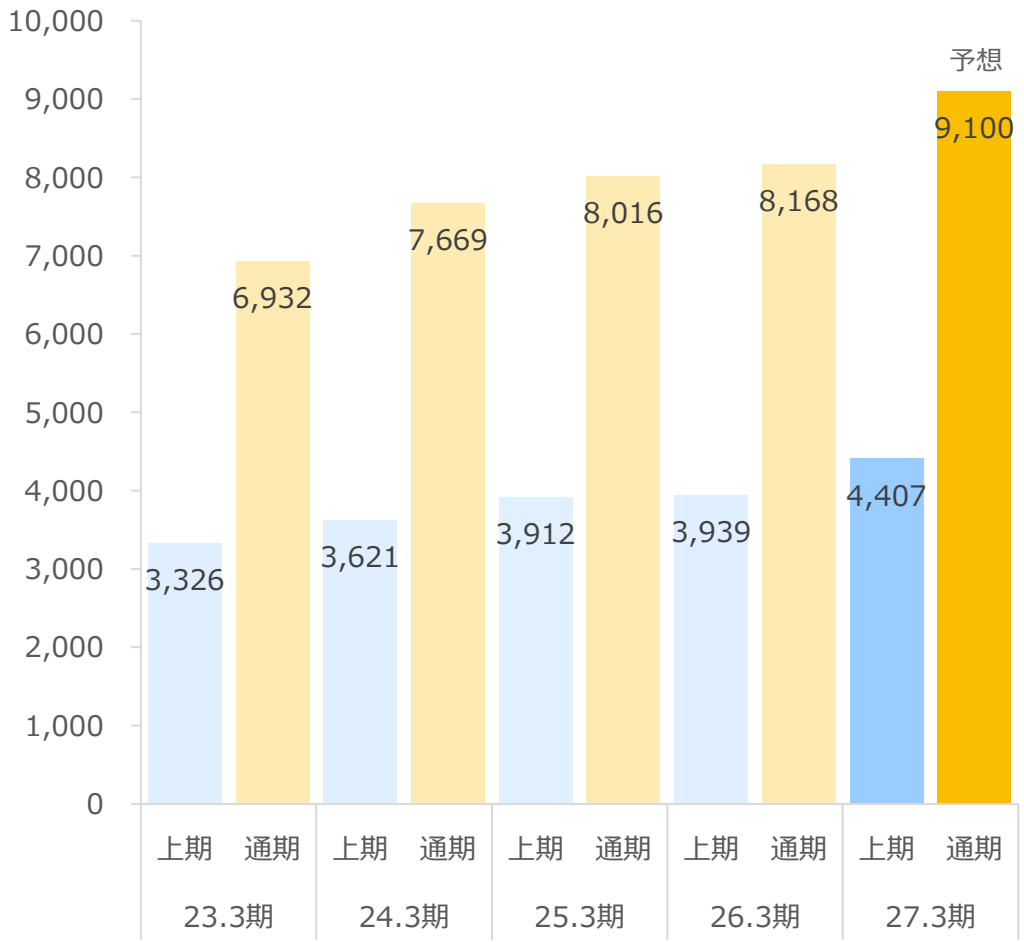
補足資料

業績推移

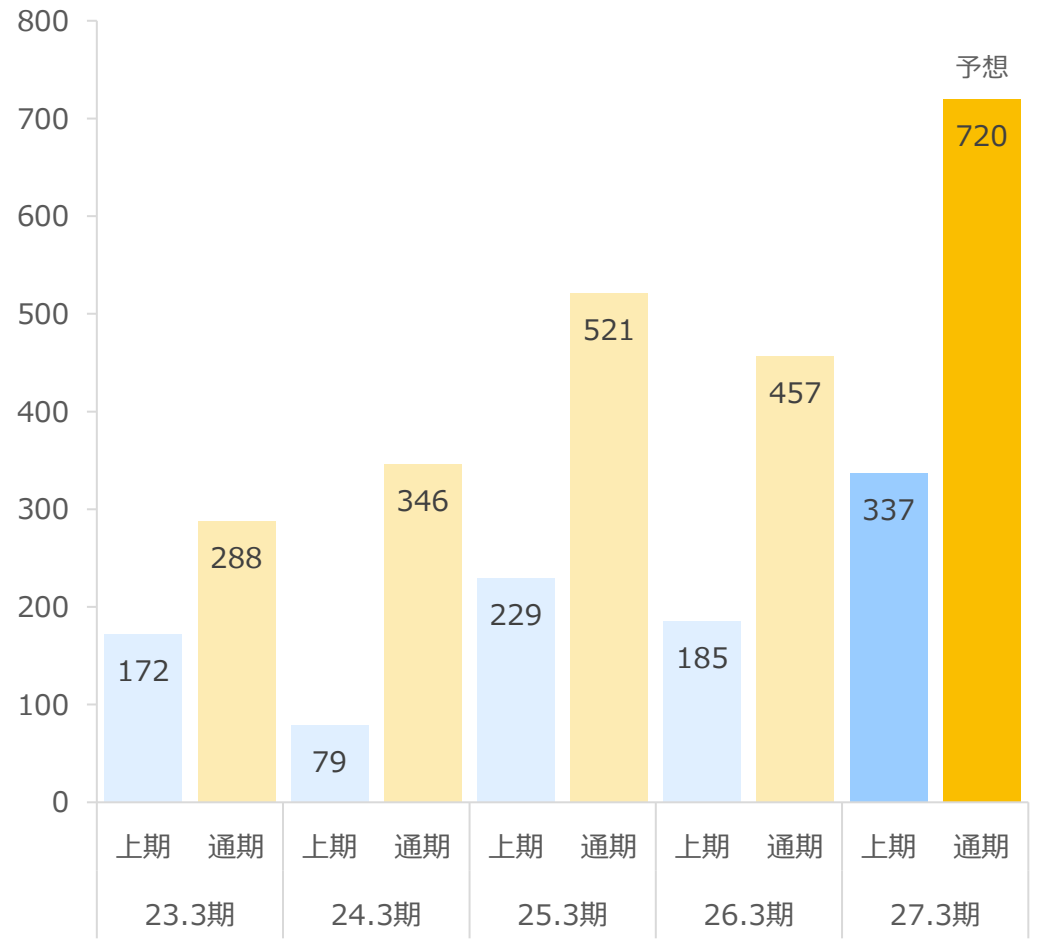
（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

売上高



営業利益



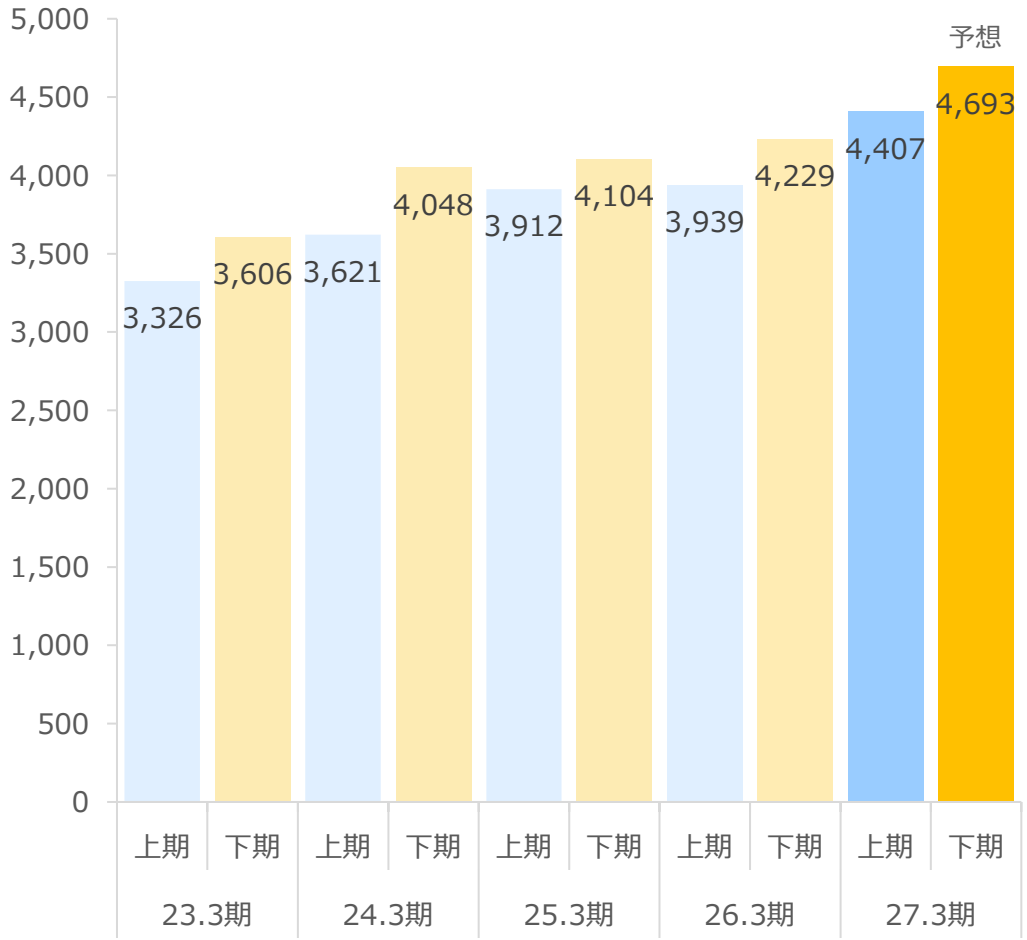
補足資料

業績推移（半期ベース）

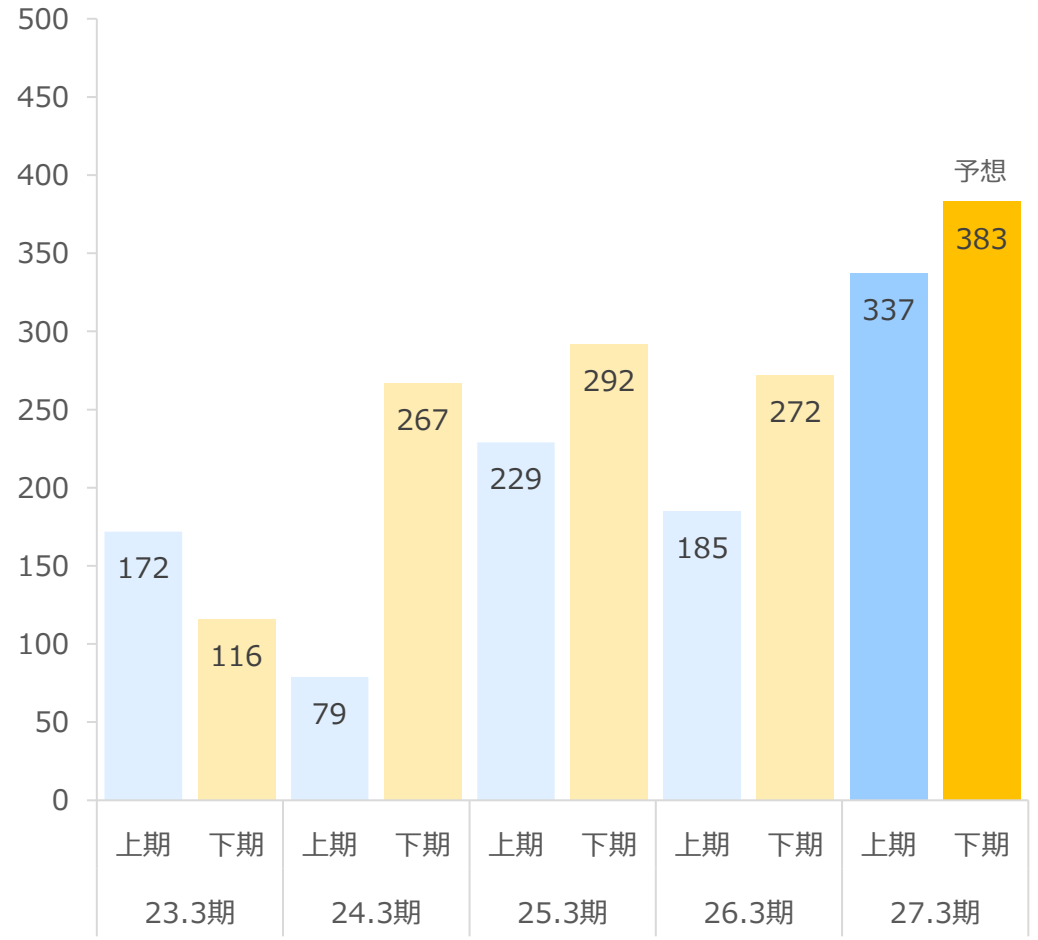
（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

売上高



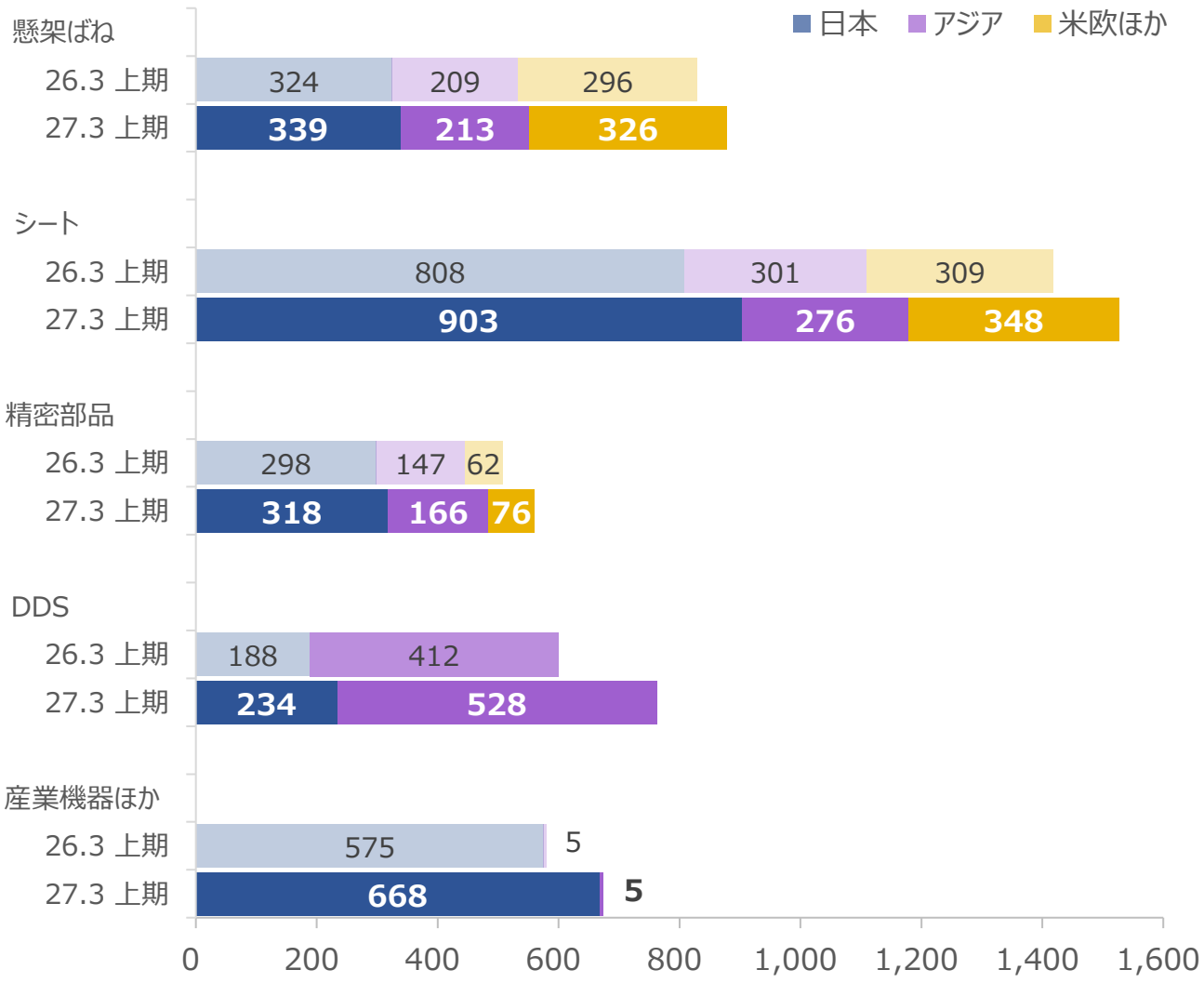
営業利益



補足資料

売上高の分解情報（上期）

（単位：億円）

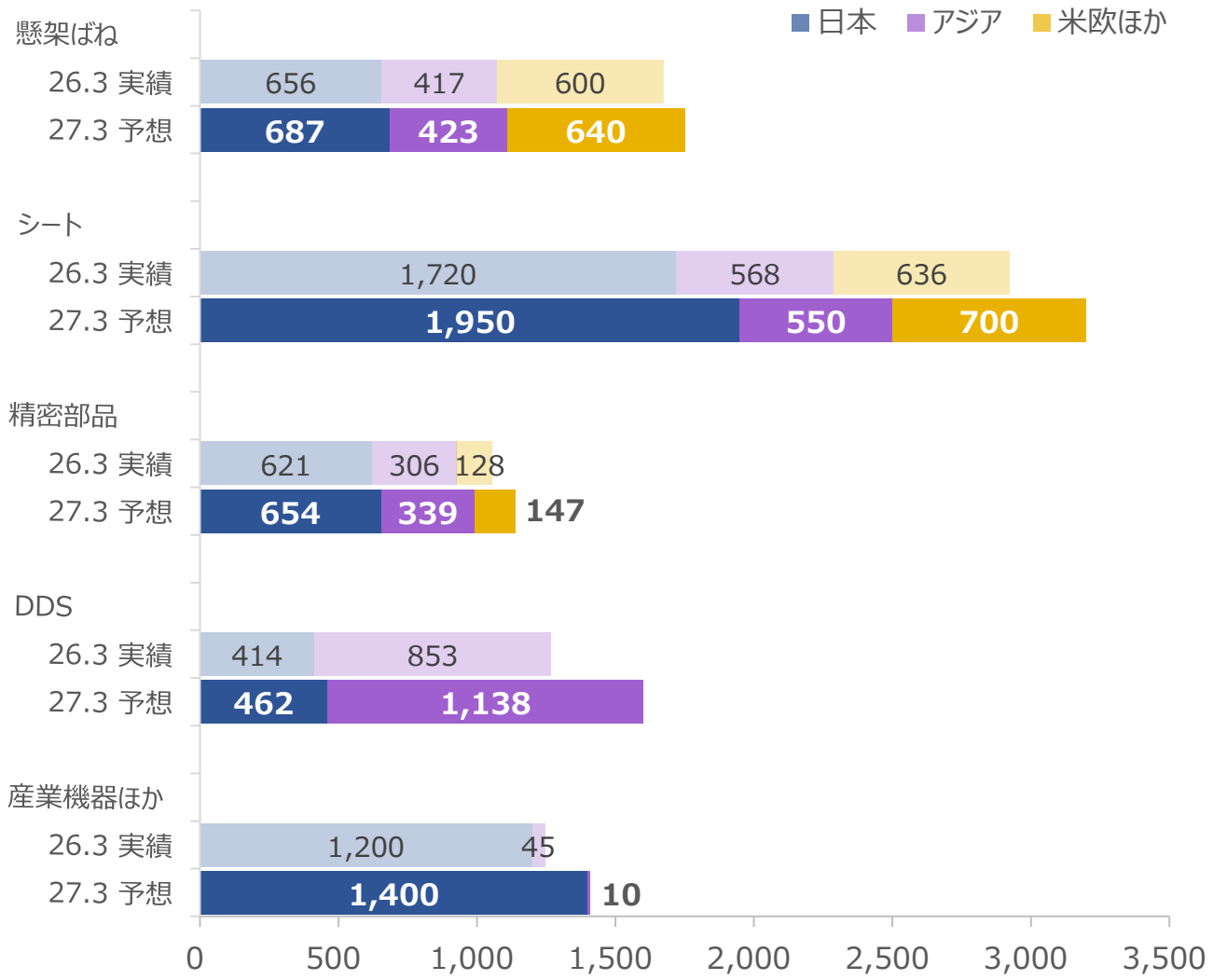


		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	26.3 上期	324	209	296	830
	27.3 上期	339	213	326	879
シート	26.3 上期	808	301	309	1,420
	27.3 上期	903	276	348	1,528
精密部品	26.3 上期	298	147	62	508
	27.3 上期	318	166	76	562
DDS	26.3 上期	188	412	-	600
	27.3 上期	234	528	-	762
産業機器ほか	26.3 上期	575	5	-	580
	27.3 上期	668	5	-	674
合計	26.3 上期	2,194	1,076	668	3,939
	27.3 上期	2,464	1,190	751	4,407

補足資料

売上高の分解情報（通期）

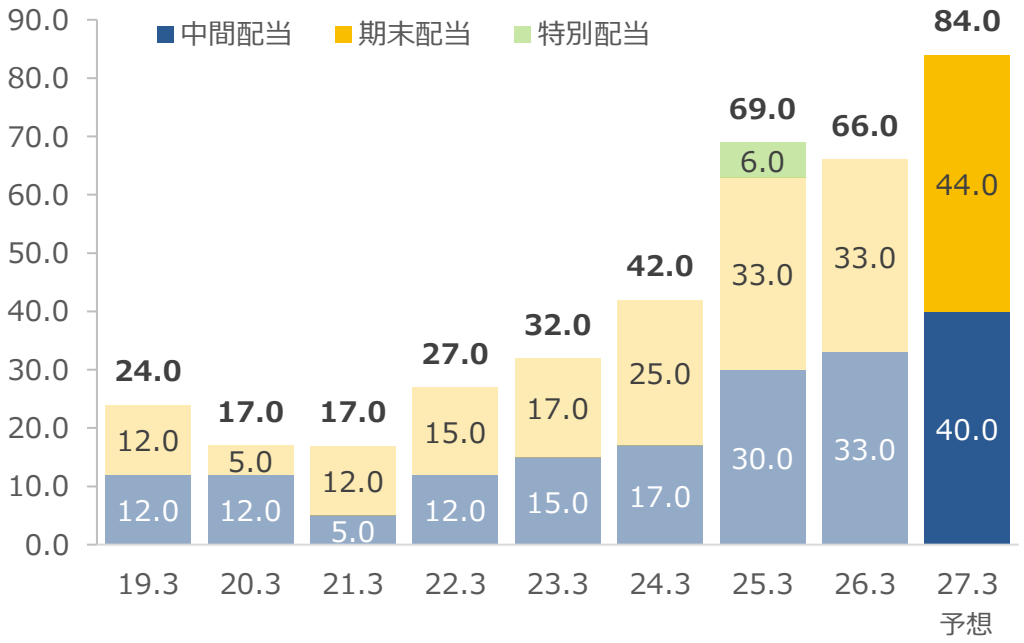
（単位：億円）



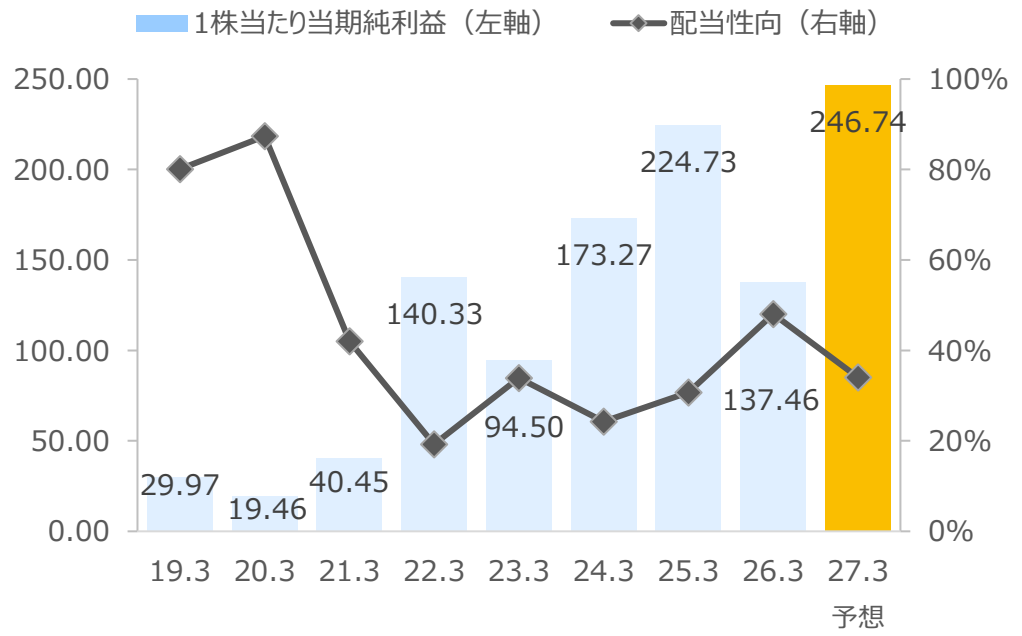
		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	26.3 実績	656	417	600	1,674
	27.3 予想	687	423	640	1,750
シート	26.3 実績	1,720	568	636	2,925
	27.3 予想	1,950	550	700	3,200
精密部品	26.3 実績	621	306	128	1,056
	27.3 予想	654	339	147	1,140
DDS	26.3 実績	414	853	-	1,267
	27.3 予想	462	1,138	-	1,600
産業機器ほか	26.3 実績	1,200	45	-	1,245
	27.3 予想	1,400	10	-	1,410
合計	26.3 実績	4,613	2,189	1,365	8,168
	27.3 予想	5,153	2,460	1,487	9,100

配当

１株当たり配当額



１株当たり当期純利益



	第2四半期末	期末	合計	配当性向
26.3期　実績	33.0円	33.0円	**66.0円**	48.0%
27.3期　予想	40.0円	44.0円	**84.0円**	34.0%

補足資料

資産の状況

（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

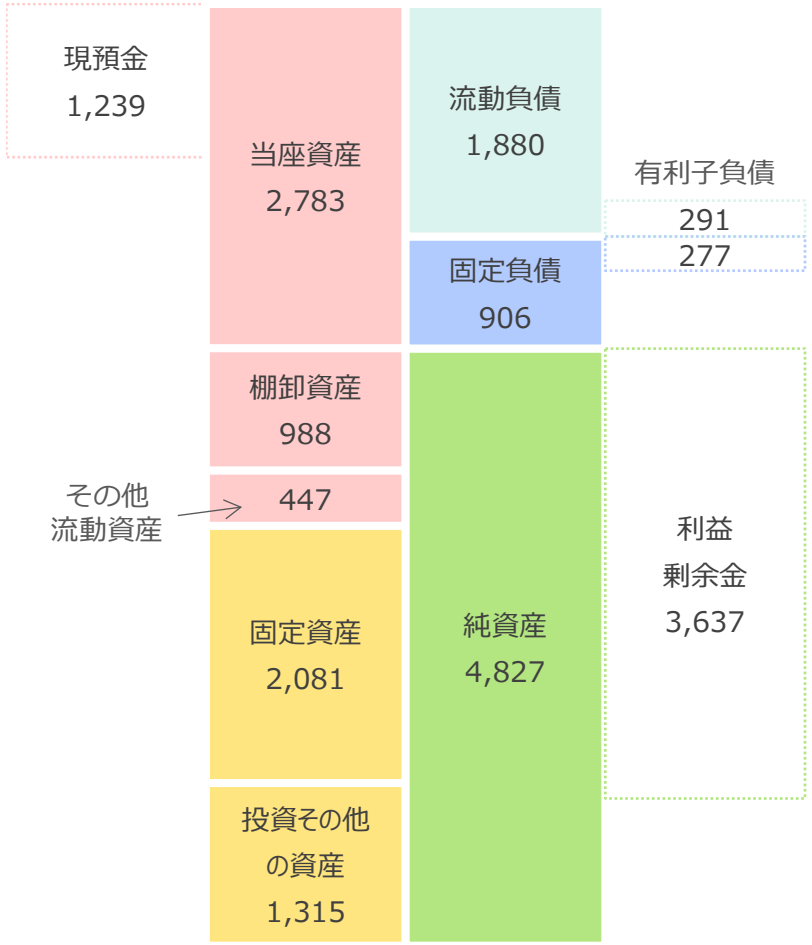
	23.3期 実績	24.3期 実績	25.3期 実績	26.3期 実績	**27.3期 上期実績**	増減額
総資産	6,060	6,902	6,963	7,384	**7,614**	230
自己資本	3,492	4,050	4,076	4,376	**4,683**	307
自己資本比率	57.6%	58.7%	58.5%	59.3%	**61.5%**	2.2%
現預金	729	1,032	972	1,084	**1,239**	155
有利子負債	505	474	718	642	**569**	△73
ネットキャッシュ	224	558	254	441	**669**	228

補足資料

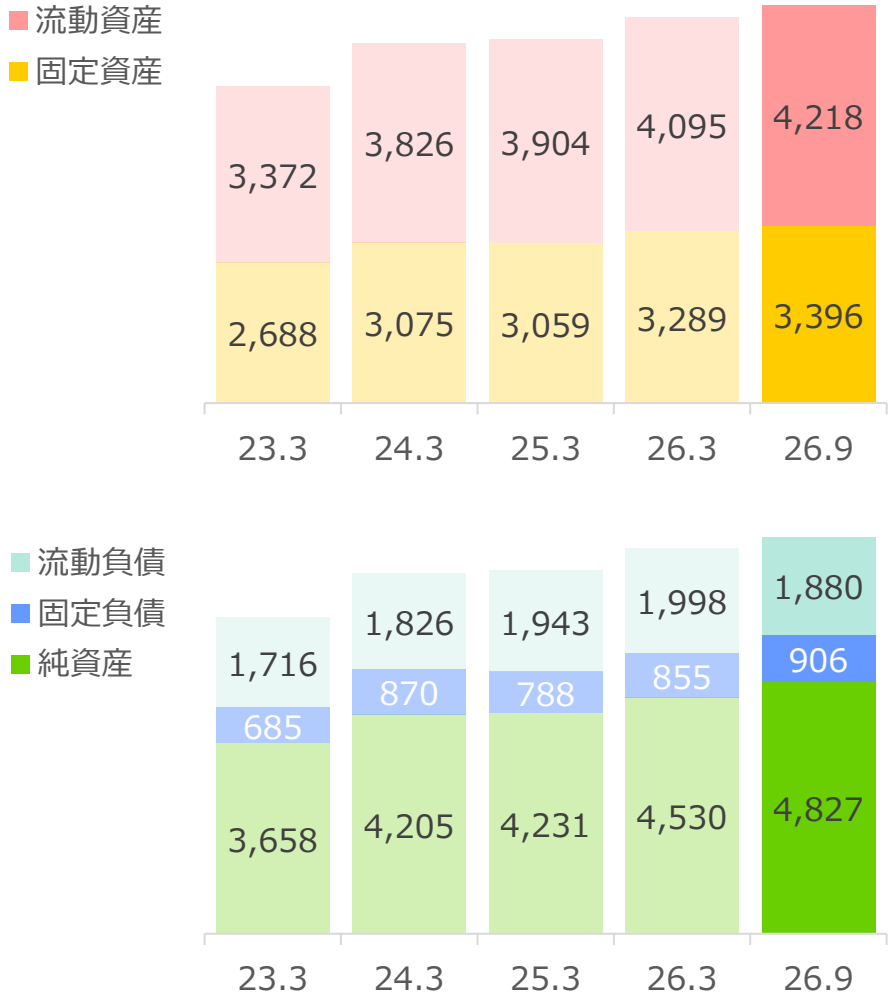
バランス・シートの状況

（単位：億円）

27.3期 上期実績



バランス・シート推移



補足資料

設備投資・減価償却費（事業セグメント別）

（億円）

		25.3期 実績	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 今回予想	27.3期 5月予想差
設備投資	懸架ばね	63	88	108	**111**	3
	シート	64	57	79	**75**	△4
	精密部品	79	106	110	**117**	7
	DDS	43	56	154	**151**	△3
	産業機器ほか	126	133	83	**100**	17
	全社共有	25	34	53	**49**	△4
	合計	402	476	587	**603**	16
	前期比	8.8%	18.4%	23.2%	**26.5%**	
減価償却費	懸架ばね	54	59	63	**66**	3
	シート	52	49	59	**60**	1
	精密部品	52	56	52	**53**	1
	DDS	64	59	80	**69**	△11
	産業機器ほか	41	53	58	**54**	△4
	全社共有	28	26	30	**30**	0
	合計	293	304	342	**332**	△10
	前期比	2.3%	3.9%	12.5%	**9.0%**	

補足資料

設備投資・減価償却費（地域セグメント別）

（億円）

		25.3期 実績	26.3期 実績	27.3期 5月時点予想	27.3期 今回予想	27.3期 5月予想差
設備投資	日本	242	312	340	**357**	17
	アジア	88	104	179	**201**	22
	米欧ほか	71	59	68	**45**	△23
	海外計	159	164	247	**246**	△1
	合計	402	476	587	**603**	16
減価償却費	日本	165	172	199	**187**	△12
	アジア	86	87	99	**97**	△2
	米欧ほか	40	44	44	**48**	4
	海外計	127	132	143	**145**	2
	合計	293	304	342	**332**	△10

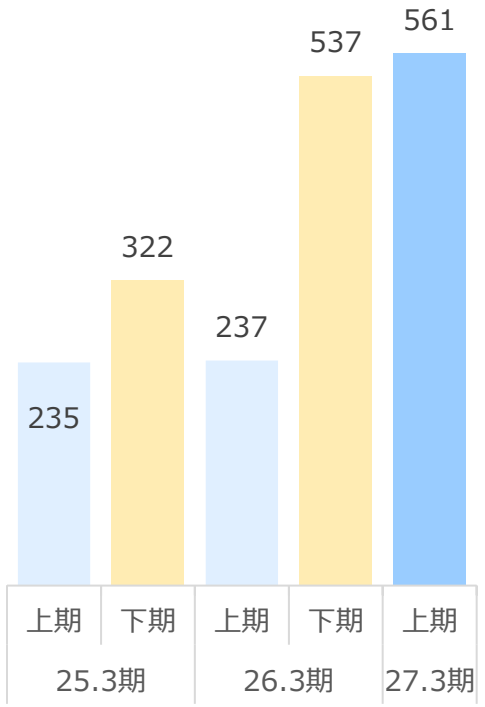
補足資料

キャッシュ・フローの状況（半期ベース）

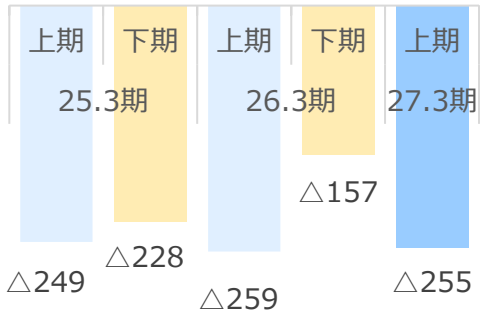
（単位：億円）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

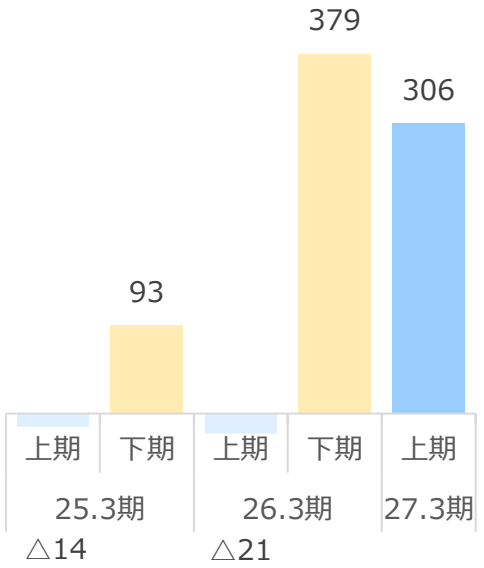
営業CF



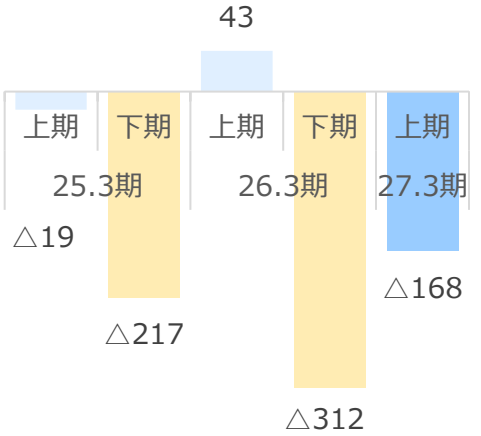
投資CF



フリーCF



財務CF

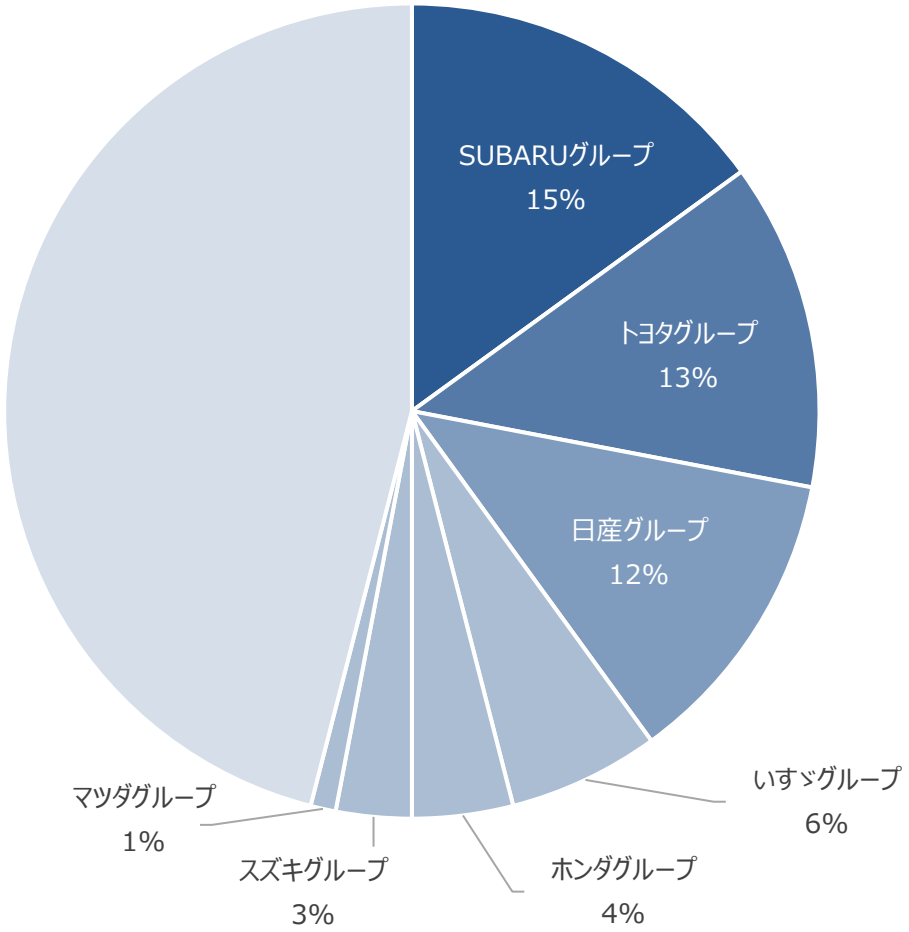


補足資料

総売上高に占める主要カーメーカーへの売上比率は？

主要カーメーカー	25.3期 実績	26.3期 実績
SUBARUグループ	15%	**15%**
トヨタグループ	13%	**13%**
日産グループ	14%	**12%**
いすゞグループ	6%	**6%**
ホンダグループ	4%	**4%**
スズキグループ	3%	**3%**
マツダグループ	1%	**1%**
上位3社	42%	**40%**

（注）比率は総売上高に対する割合



補足資料

四半期別売上推移（モーターコア、半導体プロセス部品、金属基板、レジャー分野）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

（億円）

		26.3期							27.3期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期
精密部品	モーターコア	27	30	**58**	34	32	**67**	**125**	19	22	**41**	**53**	**95**
産業機器ほか	半導体プロセス部品	59	60	**119**	66	68	**135**	**254**	79	94	**173**	**227**	**400**
	金属基板	18	17	**36**	22	25	**47**	**84**	26	25	**52**	**54**	**106**
	レジャー分野 （ゴルフプロダクト・マリンプロダクト等）	35	34	**70**	36	38	**74**	**145**	34	37	**72**	**85**	**157**

補足資料

主要海外拠点

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

イベリカデススペンシオネス社
（ＩＳＳＡ）

ＮＨＫスプリングハンガリー社
（ＮＳＨＵ）

広州日正弾簧有限公司
（ＮＵＳ）

広州日弘機電有限公司
（ＮＳＰＧ）

日發電子科技（東莞）有限公司
（ＮＡＴ東莞）

日発投資有限公司
（ＮＨＫ－Ｃ）

日本発条
（ＮＨＫ　Ｓｐｒｉｎｇ）

重慶日発汽車零部件有限公司
（重慶日発）

ＮＨＫスプリングインディア社
（ＮＳＩ）

日発電子股份有限公司
（台湾日発）

ＮＨＫオートモーティブコンポーネンツ
インディア社
（ＮＡＣＩ）

日發科技有限公司
（ＮＡＴ）

ＮＨＫマニュファクチャリング
マレーシア社
（マレーシアニッパツ）

ＮＨＫスプリングフィリピン社
（ＮＳＰ）

ＮＨＫスプリングタイランド社
（タイニッパツ）

ＮＨＫケービーユーシーティング社
（ＮＫＳ）

ＮＨＫスプリングインドネシア社
（ＮＳＩＤ）

ＮＨＫプレシジョンタイランド社
（タイ日精工）



ＮＨＫインターナショナル社
（ＮＨＫインター）



ＮＨＫシーティングオブアメリカ社
（ＮＳＡ）

ＮＨＫスプリングプレシジョン
オブ アメリカ社
（ＮＳＰＡ）

ＮＨＫオブアメリカサスペンション
コンポーネンツ社
（ＮＡＳＣＯ）

トープラアメリカファスナー社
（ＴＡＦ）

ニューメーサーメタルス社
（ＮＭＭＩ）

ＮＨＫスプリングメキシコ社
（ＮＳＭ）

トープラファスナーデメキシコ社
（ＴＦＭ）

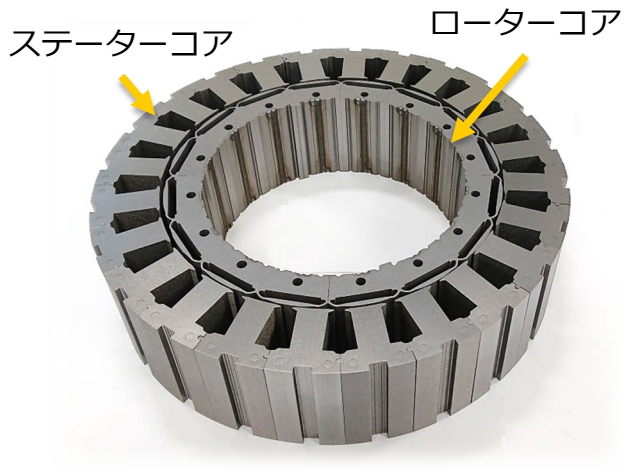
ラッシーニ－ＮＨＫアウトペサス社
（ＲＮＡ）

懸架ばね　シート　地域統括・事業支援・営業拠点

精密部品　ＤＤＳ　産業機器ほか　全製品

製品紹介：モーターコア（精密部品セグメント）

■モーターコア



当社で手がけるモーターコアは、EV、HV自動車の駆動用、または発電用モーターに使用される積層鉄心です。

0.25～0.35mmの電磁鋼板をプレスで打ち抜いて数百枚積層したもので、カシメや溶接により締結されております。

モーターコアは磁石が挿入されてモーターの回転部となるローターコアと、固定となる巻き線部のステーターコアから構成されます。

バッテリーからの電力がインバーターを介してモーターに供給され、コイルを巻き付けたステーターコアに発生する回転磁界の作用によりマグネットが組み込まれたローターコアが吸引・反発することでローターコアが高速回転します。

薄板の積層鉄心であるモーターコアは磁力線が通りやすく、より強い磁力を発生させる機能を持ちます。

モーターコアは直径200mm前後、高さ150mm前後で、当社で手がける精密プレス加工品としては比較的大きいサイズとなりますが、必要とされる製品寸法精度がミクロンレベルであり、当社で長年かけて築き上げてきた自動車用部品の精密プレス加工技術や、HDD（ハードディスクドライブ）用部品の精密プレス加工技術を駆使した、大型の超高精度プレス加工品であります。

モーターコアの生産において肝となるプレス金型は、設計～製作～メンテナンスまで一貫して自社で行っており、国内だけでなく、グローバル展開しておりますメキシコ、中国の工場でも同じ品質のモーターコアの生産が可能です。

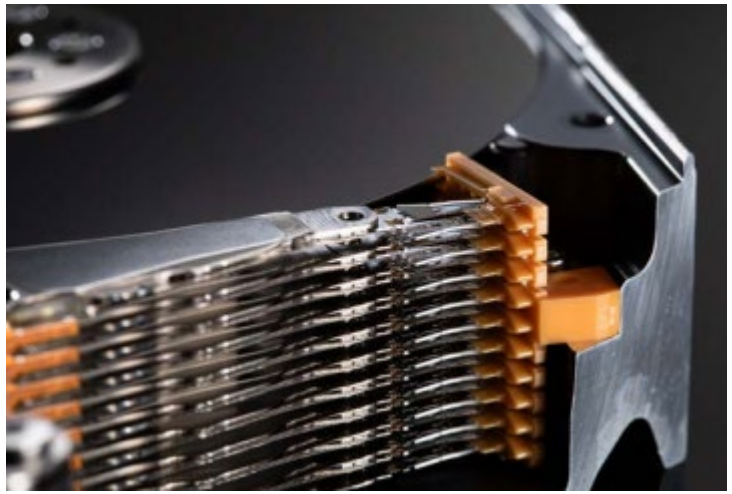
補足資料

製品紹介：HDD用サスペンション（DDSセグメント）

■HDDサスペンション



■HDDサスペンション搭載箇所



ＨＤＤ用サスペンションは、ＨＤＤの中で、ディスク上のデータを読み書きする微小部品を支える特殊ばね製品です。

近年ＨＤＤはパソコン向けよりも、ＳＮＳや動画共有サイトなどのデータセンター向けが多くなっています。データセンターではギガサイズのファイルを大量に保存するため、大容量ＨＤＤが数十万個単位で並んでいて、そのＨＤＤ一つ一つに多くのＨＤＤ用サスペンションが搭載されています。左の写真ではＨＤＤ１台に２０個、データセンター全体では膨大な数のＨＤＤ用サスペンションが使われています。

大容量HDD用サスペンションには、超小型アクチュエータが組み込まれており、データを読み書きする微小部品を微細に動かし、ディスク上のデータをより高密度で読み書きする事が出来ます。

この超小型アクチュエータを、製品中央部に組み込んだものをＤＳＡ、先端部に組み込んだものをＣＬＡと呼んでいます。人で例えるならＤＳＡは手首、ＣＬＡは指先が動くイメージです。またさらに高性能な製品としてＤＳＡとＣＬＡの両方を組み込んだ、現在主力のＴＳＡを開発しました。繊細かつダイナミックな動きが可能で、データセンターで使用するＨＤＤのさらなる大容量化に貢献します。

当社はＣＬＡやＴＳＡを世界に先駆け量産化、グローバルでトップシェアを有しております。

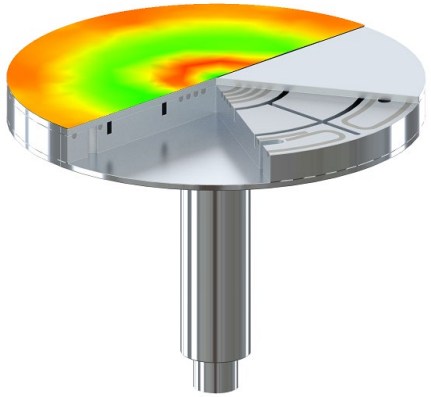
＊ＤＳＡ＝Dual Stage Actuatorの略
＊ＣＬＡ＝Co-Located Actuatorの略
＊ＴＳＡ＝Triple Stage Actuatorの略

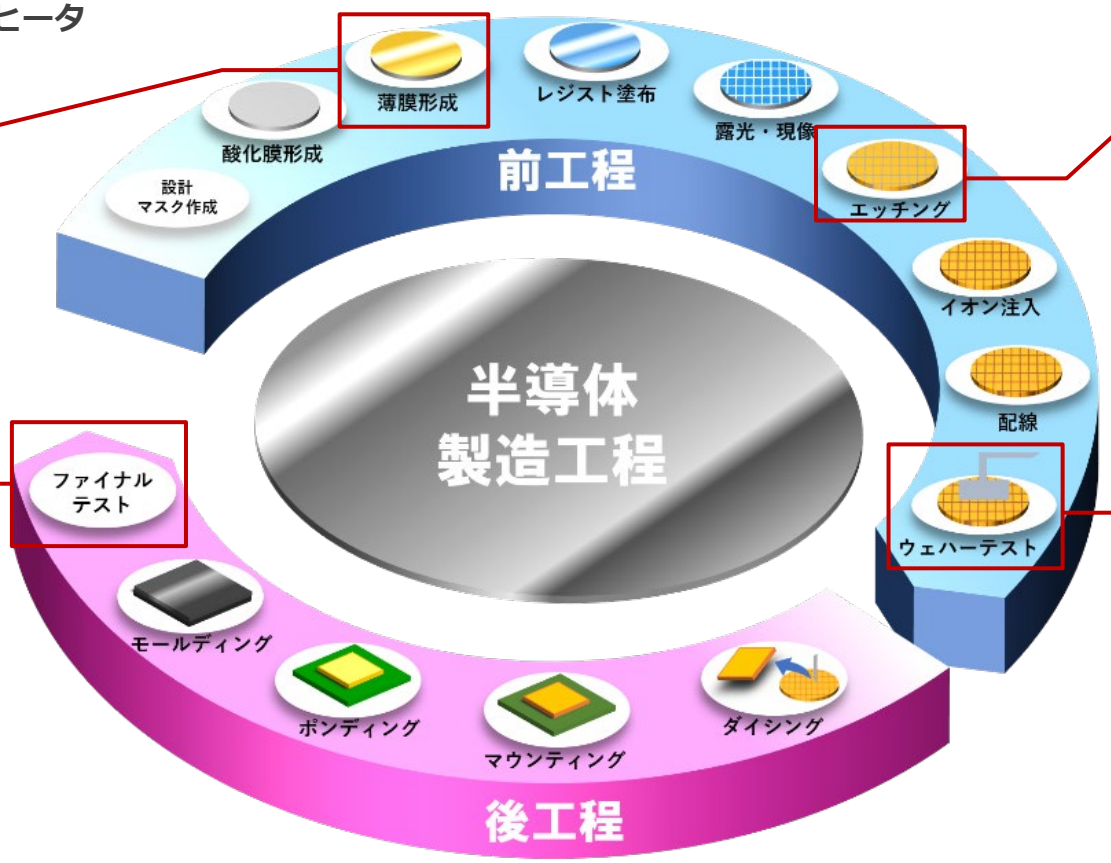
補足資料

半導体関連製品

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

■成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ

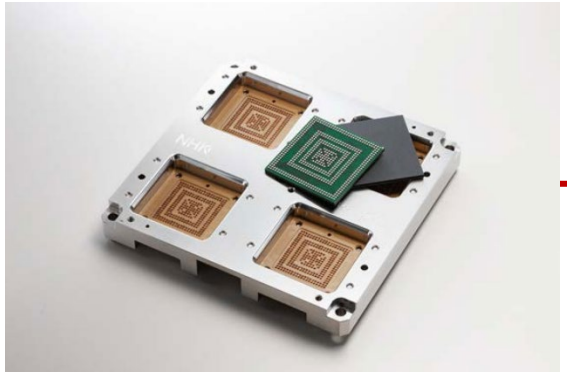




■エッチング装置用溶射付冷却板



■テストソケット



■コンタクトプローブ（マイクロコンタクタ®）



■プローブカード



補足資料

製品紹介：半導体テスト器具（DDSセグメント）

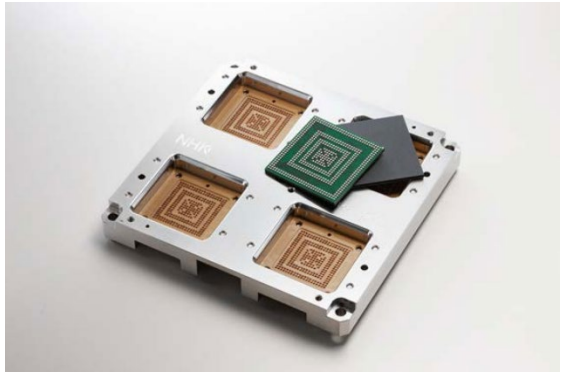
■コンタクトプローブ（マイクロコンタクタ®）



■プローブカード



■テストソケット



半導体テストとは、半導体製品に電気を流して正常に動作するかを検査することです。

半導体テスト器具は、半導体テストにおいて半導体とテスト装置をつなぐ役割を果たします。当社は、前工程（半導体ウエハー工程）の検査で使用するプローブカードと後工程（パッケージ工程※）の検査で使用するテストソケット、およびそれらに組み込むばね製品、コンタクトプローブ（マイクロコンタクタ®）を世界中の半導体メーカーやその関連企業に提供しています。

マイクロコンタクタ

半導体テストで用いられる微細ばねを使用した検査端子です。テスト装置から出力された電気信号は、マイクロコンタクタを介して半導体へと送られます。半導体の端子に合わせて、さまざまな先端形状の加工が必要であり、当社は設計から加工まで、自社工場内で一貫して行うことができます。また顧客の要望に応じた特殊形状の提案も可能です。

プローブカード

前工程で用いられる器具です。微細穴を開けた円盤状の板にマイクロコンタクタが数十本から数千本、多いものでは数万本組み込まれています。検査対象であるウェハー上には半導体の微細な端子が無数にあり、その一つ一つにマイクロコンタクタを正確に接触させて個々の半導体の電気的特性（良否）を検査します。この正確で均一な接触のため、導通性能や寸法精度の高いマイクロコンタクタを使用することが重要です。

テストソケット

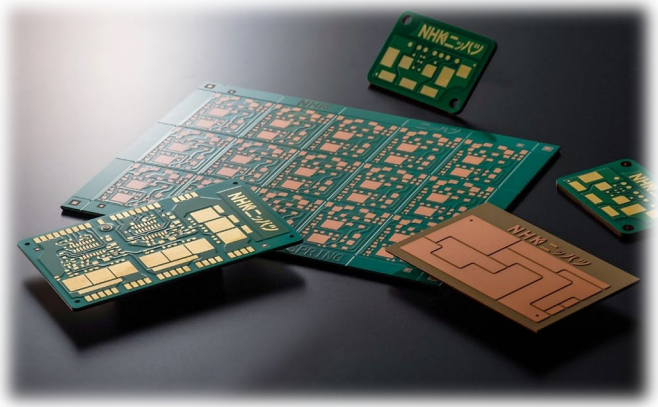
後工程で用いられる器具です。ソケットに挿入された個々の半導体パッケージは、マイクロコンタクタを介してテスト装置と接続され、電気特性や信頼性の試験が行われます。

※パッケージ工程（半導体ウェハーから切り出されたICを回路の保護や外部の周辺回路と接続をしやすくするため、プラスチックやセラミックで封入する工程）

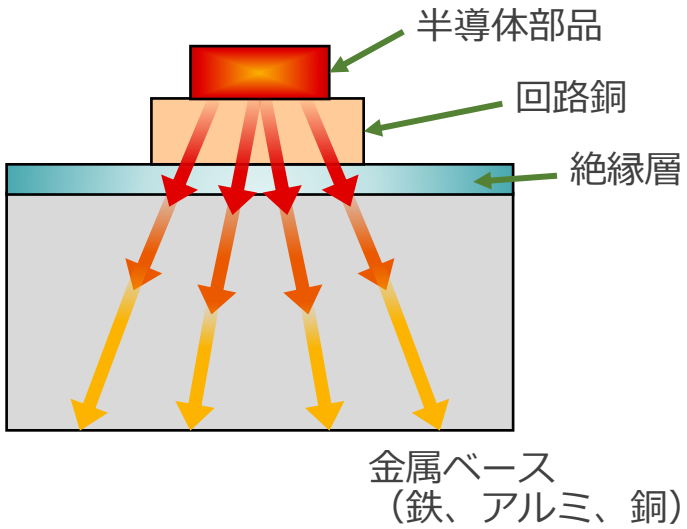
補足資料

製品紹介：金属基板 ~Integrated Metal Substrate~

（産業機器ほかセグメント）



■ **IMSの断面構造図**



金属基板（以下IMS）は、ベースにアルミや銅などの金属板の上に絶縁層を介して回路を形成したもので、放熱性が優れているという特徴があります。その放熱性を活かして、車載用、産業用、民生用の分野で、IMS上に実装される半導体部品などが発生させる熱を効率よく逃がすという働きで使われております。

自動車分野では、電気自動車やハイブリッド車に搭載されるDC-DCコンバータや充電器モジュールなどへの採用が増えており、将来的には駆動用のインバータ回路への採用も目指しております。産業用途では、汎用インバータやエアコンのインバータ回路の他にも、再生可能エネルギーのパワーコンディショナー内部のパワーモジュールとして当社IMSが多く使用されております。

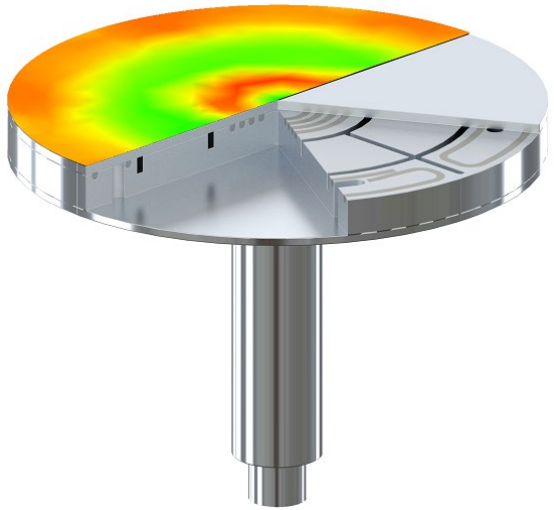
当社のIMSの特徴は、高放熱・高信頼な絶縁層の開発からIMS製造までの一貫生産を行うことを強みとしております。

当社では、1980年代よりIMS開発を開始し、現在に至るまで次々と高放熱絶縁材を市場に送り出し業界をリードしております。

製品紹介：半導体プロセス部品（産業機器ほかセグメント）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

■ **成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ**



■ **エッチング装置用溶射付冷却板**



半導体はシリコンの基板上に導線および絶縁物が微細かつ複雑なパターンで描かれ、回路が形成されています。ニッパツの半導体プロセス部品は半導体製造の主要工程である“成膜”および“エッチング”の工程で用いられています。

ニッパツのステージヒータはCVD、ALD*などの成膜工程で広く採用されています。主にアルミ合金、ステンレスなどの金属製で、長年培ってきた高度な接合技術により、複雑な内部構造の実現が可能です。

*CVD；Chemical Vapor Deposition（化学気相成長）の略
*ALD；Atomic Layer Deposition（原子層堆積）の略

ヒータエレメントの設計技術、シミュレーションのための解析技術を駆使し、複数のヒータエレメントや冷媒用チャンネル、断熱空間を配置し、均一な温度分布のみならず、部分的に数十度の範囲で差を生み出す、積極的な温度分布制御を可能にしています。

一方エッチング装置向けにおいては、冷却板と呼ばれる、プロセス中のシリコンウエハが載荷される、重要なステージ部品を製造しています。多くはアルミ合金で造られており、ヒータ同様高度接合技術を核に、材料調達から精密加工、セラミクス溶射施工までの一貫生産を強みとしています。

近年では、チャンバ下部でウエハを支持するヒータ、冷却板に加え、チャンバ上部に設置され、プロセスに必要なガスを供給するための部品であるシャワーヘッドの開発にも注力しており、売上を伸ばしております。

NHKニッパツ

●本資料に記載している日本発条㈱の予想、計画は、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、経済情勢、市場動向、為替の動向等、重要な要素の変動により、見通しとは異なる結果となり得ることもご承知下さい。

●本資料に掲載されている事項は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

●この資料の著作権は日本発条㈱に帰属しております。
●無断転載・複製することを禁じます。

シェアードリサーチ社による
当社の調査レポートはこちら
Shared Research